

本庁舎整備に関する市民アンケート調査 報告書

平成26年8月

千葉市

1. 本庁舎整備に関する市民アンケート調査結果	1
(1) 調査概要.....	1
1) 調査の経緯.....	1
2) 調査の目的.....	1
3) 実施方法.....	1
(2) 調査結果.....	2
1) 回答者のプロフィール.....	2
2) 市役所本庁舎の利用状況.....	4
3) 新庁舎建設の重要な視点（重要なものを5つまで※）.....	8
4) 敷地活用意向（複数回答）.....	12
5) 新庁舎建設に関する自由記述.....	15
2. 本庁舎整備に関する高校生アンケート調査結果	18
(1) 調査概要.....	18
1) 調査の経緯.....	18
2) 調査の目的.....	18
3) 実施方法.....	18
(2) 調査結果.....	19
1) 回答者のプロフィール.....	19
2) 市役所本庁舎の利用状況.....	21
3) 新庁舎建設の重要な視点（重要なものを5つまで※）.....	23
4) 敷地活用意向（複数回答）.....	25
5) 新庁舎建設に関する自由記述.....	27
3. 本庁舎整備に関する市民アンケート調査 クロス集計結果	29
1) 年齢別の回答の傾向.....	29
2) 市庁舎訪問経験有無別の回答の傾向.....	37
【参考資料】 市民アンケート調査票	43

1. 本庁舎整備に関する市民アンケート調査結果

(1) 調査概要

1) 調査の経緯

本市は、東日本大震災を契機として、本庁舎整備についてさまざまな対応策を検討してきた。その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して3カ所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ長期的に見て最も維持管理コストが抑えられるとの結論に至った。

これらの結論を踏まえ、平成 26 年度は新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定している。

2) 調査の目的

本アンケート調査は、新庁舎を建設する上での基本方針や新庁舎に求められる機能など、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成する上で、これからの千葉市にとって、どのような市役所本庁舎が必要であると考えていられるのか、市民の皆様にご意見をお伺いするために実施したものである。

3) 実施方法

調査の実施方法は、次のとおりである。

① 調査対象者

千葉市内に居住の平成 26 年 3 月 31 日現在で 18 歳以上の市民の中から無作為抽出した 10,000 名を調査対象とした。調査票の配布総数は 9,932 票である*。

※無作為抽出ののち、市外への転出などにより調査の対象外となった方を除いている。

② 配布方法

千葉市から、調査票を郵送で配布・回収を実施した。

③ 調査期間

平成 26 年 4 月 30 日(水)に配布・発送し、5 月 30 日(金)〆切。のち、7 月 2 日(水)まで到着したアンケート票を追加(35 票)し、最終締切とした。

④ アンケート回収状況(最終締切)

回収数 : 2,675 票(回答率:26.8%)

有効回答数 : 2,647 票(有効回答率:26.7%)

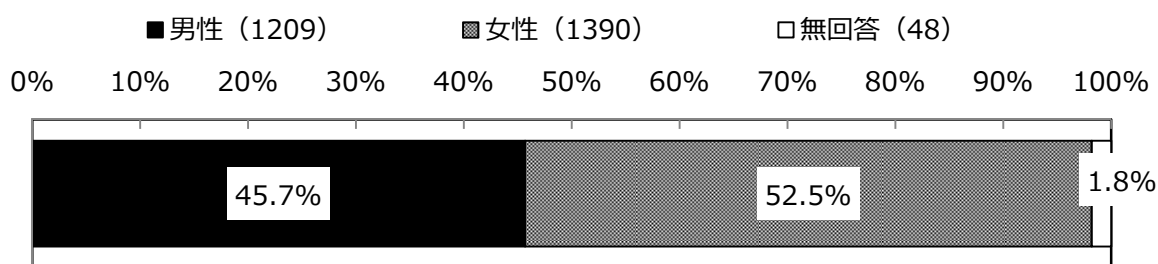
(2) 調査結果

1) 回答者のプロフィール

① 性別

- 性別による回答者の割合は、「男性」が 45.7%、「女性」が 52.5%と、若干女性の回答者が多い傾向であった。

※凡例のカッコ内は回答者数を示す。

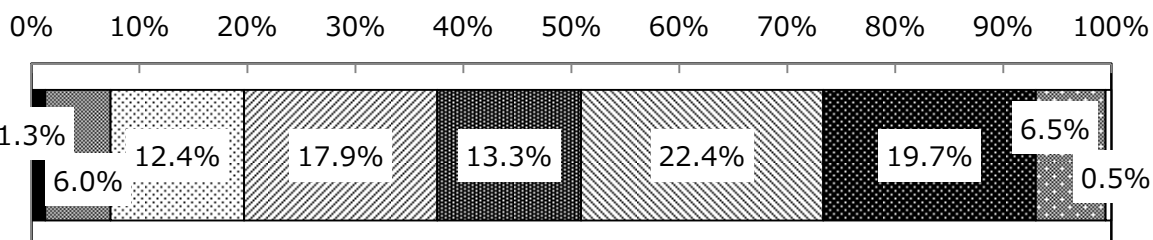


N=2,647

② 年齢

- 年齢層別の回答者の割合は、60歳代(60～69歳)が 22.4%と最も多く、次いで 70歳代(70～79歳)で 19.7%であった。一方で、若年層(18・19歳や 20～29歳)の回答率が低い。

■ 18・19歳 (34)	■ 20～29歳 (160)	■ 30～39歳 (327)
■ 40～49歳 (474)	■ 50～59歳 (352)	■ 60～69歳 (594)
■ 70～79歳 (521)	■ 80歳以上 (171)	□ 無回答 (14)

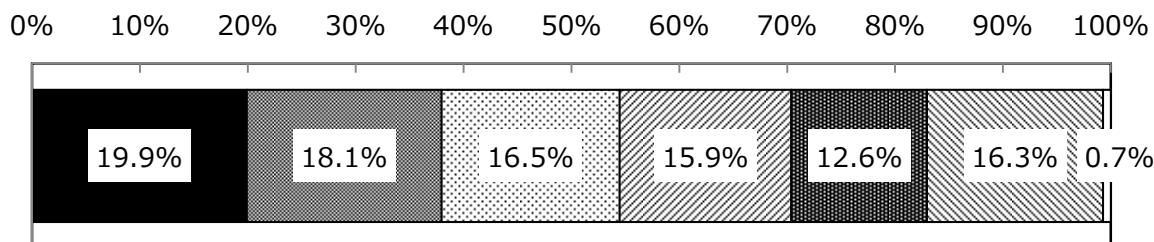


N=2,647

③ 居住地

- 居住地別の回答者割合では、中央区(19.9%)と最も高く、次いで花見川区(18.1%)であった。

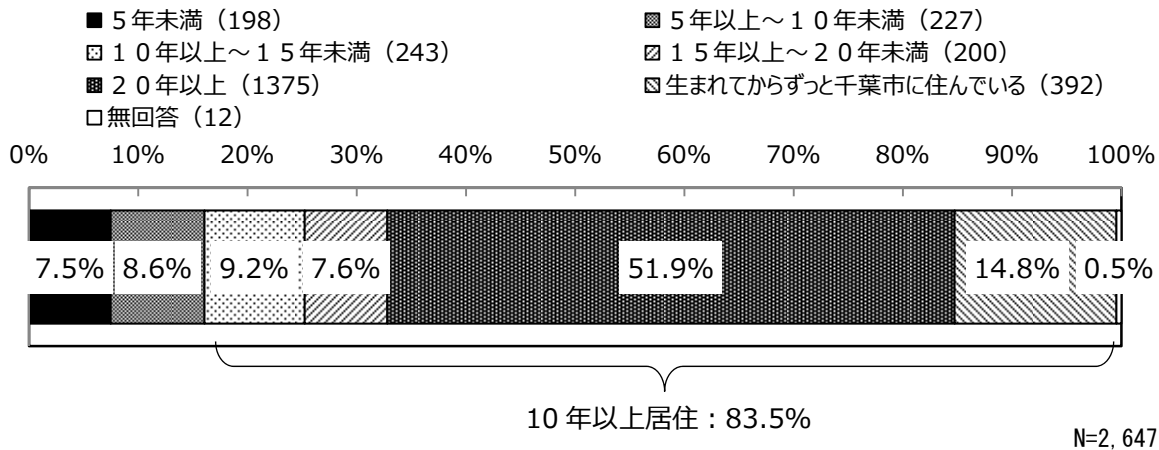
■ 中央区 (527)	■ 花見川区 (478)	■ 稲毛区 (437)	■ 若葉区 (421)
■ 緑区 (333)	■ 美浜区 (432)	□ 無回答 (19)	



N=2,647

④ 市内在住期間（通算）

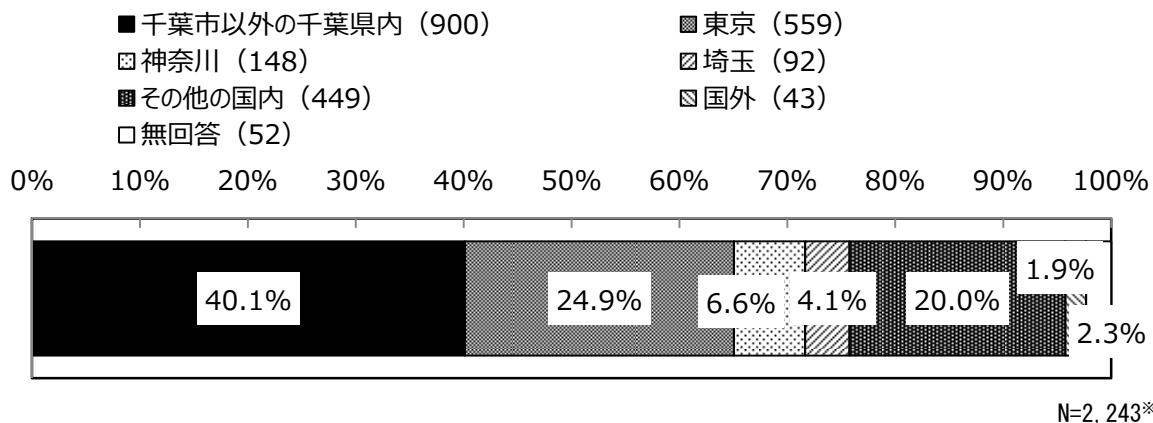
- 市内の在住期間の回答者割合では、半数以上の方が千葉市内に20年以上居住している市民（51.9%）であった。生まれてからずっと千葉市に住んでいる方（14.8%）を含めると約7割、回答者の8割以上が10年以上本市に居住する市民である。



※四捨五入の都合上、「10年以上居住(83.5%)」は、個々の割合の合計値と異なる。

⑤ 転入前の居住地

- 回答者の転入前の居住地では、「千葉市以外の千葉県内」が40.1%と最も多く、次いで「東京」(24.9%)、「その他の国内」(20.0%)となっている。

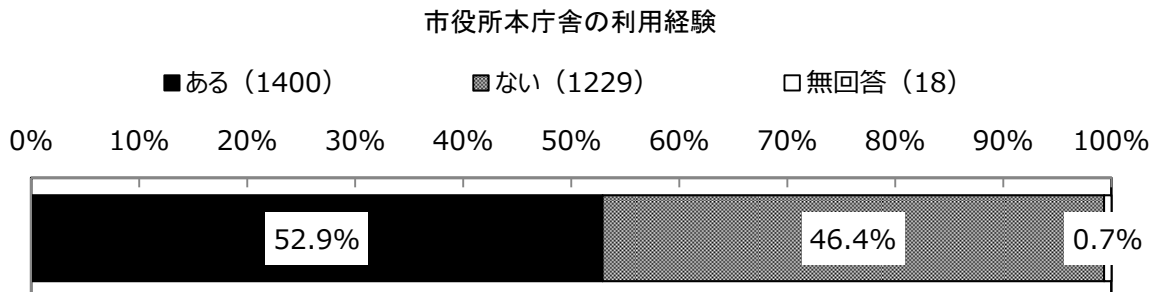


※前問④「市内在住期間(通算)」において、「生まれてからずっと千葉市に住んでいる(392名)」、「無回答(12名)」と答えた回答者を除いた値

2) 市役所本庁舎の利用状況

① 市役所本庁舎*利用経験の有無

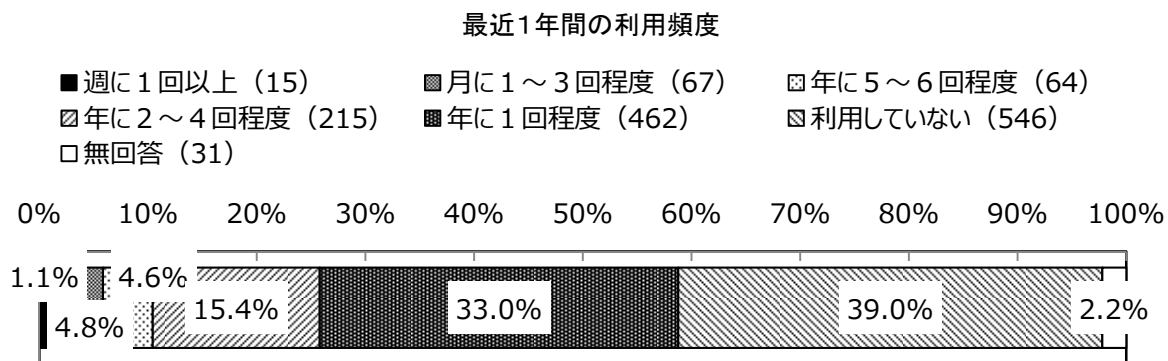
- 市庁舎本庁舎の利用について、約半数の回答者(52.9%)が「市役所本庁舎の利用経験がある」と回答している。



※本庁舎、中央コミュニティセンター及びポートサイドタワーをいう。なお、中央コミュニティセンター4～6階(体育館、プール、サークル室)の利用は除く。 N=2,647

② 市役所の利用頻度

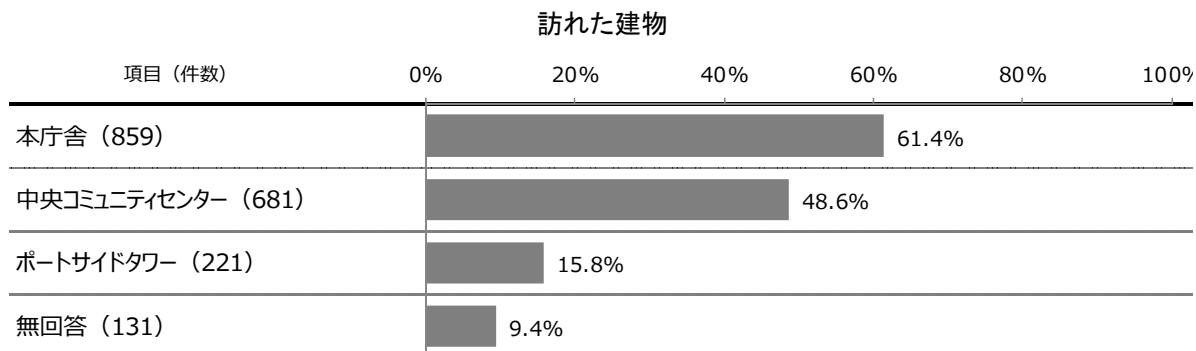
- 市役所本庁舎の「利用経験がある」と回答した市民(1,400名)の最近一年間の利用頻度は、「利用していない」が39.0%と最も多く、次いで「年に1回程度(33.0%)」、「年に2～4回程度(15.4%)」であった。



N=1,400

③ 訪問した建物(複数回答)

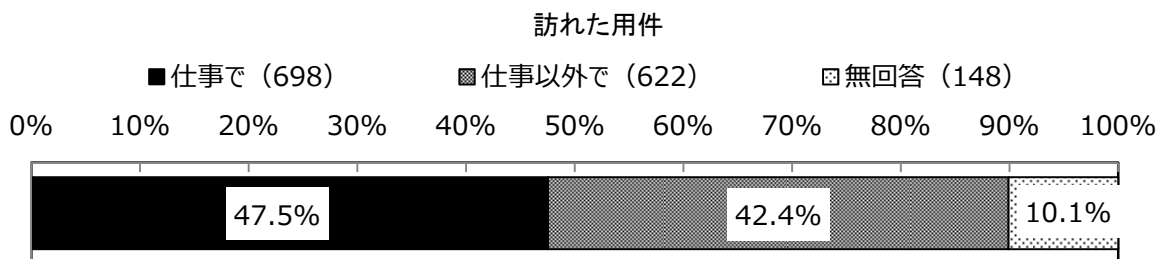
- 「利用経験がある」と回答した市民(1,400名)のうち、訪問した建物では、「本庁舎(61.4%)」が最も多く、次いで「中央コミュニティセンター(48.6%)」、「ポートサイドタワー(15.8%)」であった。



N=1,400

④ 市役所本庁舎の訪問用件（複数回答）

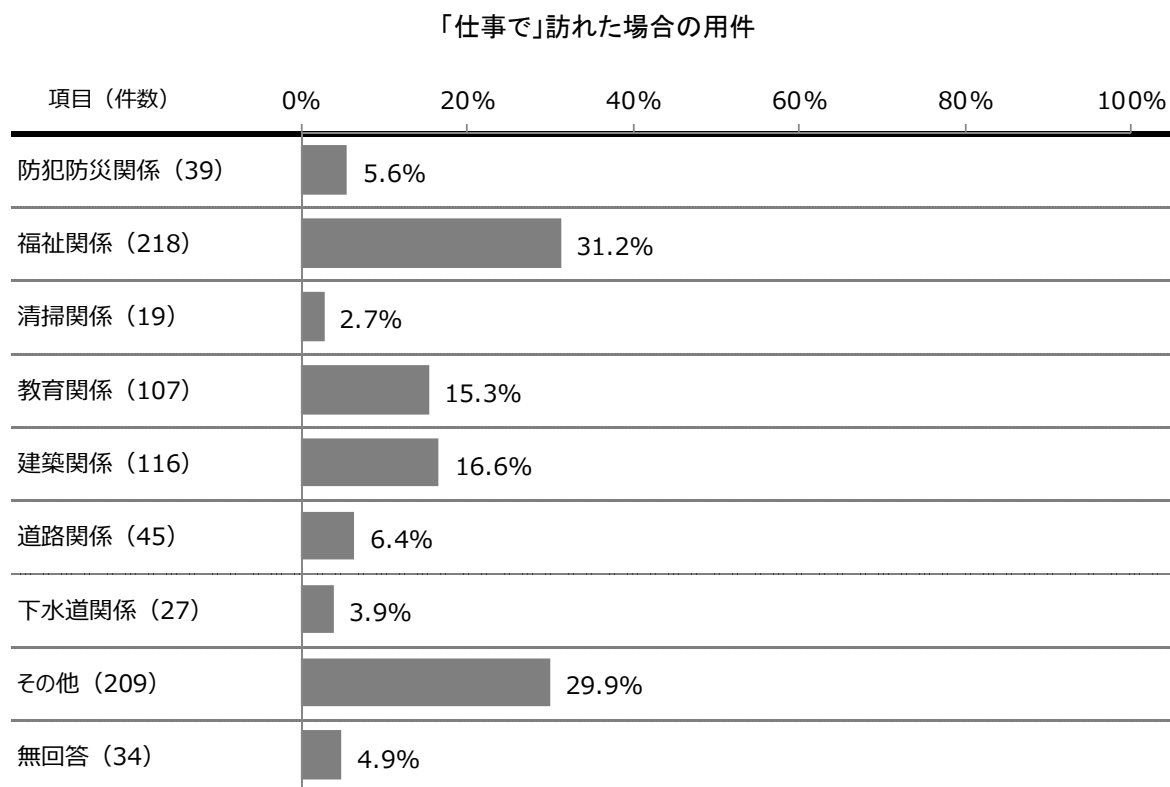
- 「利用経験がある」と回答した市民(1,400名※)のうち本庁舎を訪れた用件別では、「仕事で」の訪問が47.5%、「仕事以外で」の訪問が42.4%であり、仕事利用が若干高い割合であった。



※本問はどちらか一つを選択としていたが、中には2つ以上選択された回答もあったため、選択個数によらず回答総数を集計対象とした。

ア) 仕事で訪れた場合の具体的な用件

- 仕事での訪問(698名)と回答した方の具体的な来庁用件では、「福祉関係(31.2%)」の用件が最も多く、次いで「建築関係(16.6%)」、「教育関係(15.3%)」であった。



N=698

- 仕事での訪問のうち、「その他」と回答した方の主な用件は、以下のとおりである。
(用件を記入された方、107 名の内容を整理)

表 仕事での訪問で「その他」と回答した方の主な用件

仕事で訪れた主な用件（5件以上）	件数
書類等の申請や届出(戸籍、転入届など)	18
各課への訪問(税金関係)	6
各課への訪問(農業関係)	6
各課への訪問(その他)	10
市民講座・クラブ活動	9
パート・アルバイト等	7
営業・業務活動	6
見学	5
待ち合わせ等	5
その他	35

イ) 仕事以外で訪れた場合の具体的な用件（自由記述）

- 仕事以外の訪問について、主な用件は以下のとおりである。
(用件を記入された方、488 名の内容を整理)

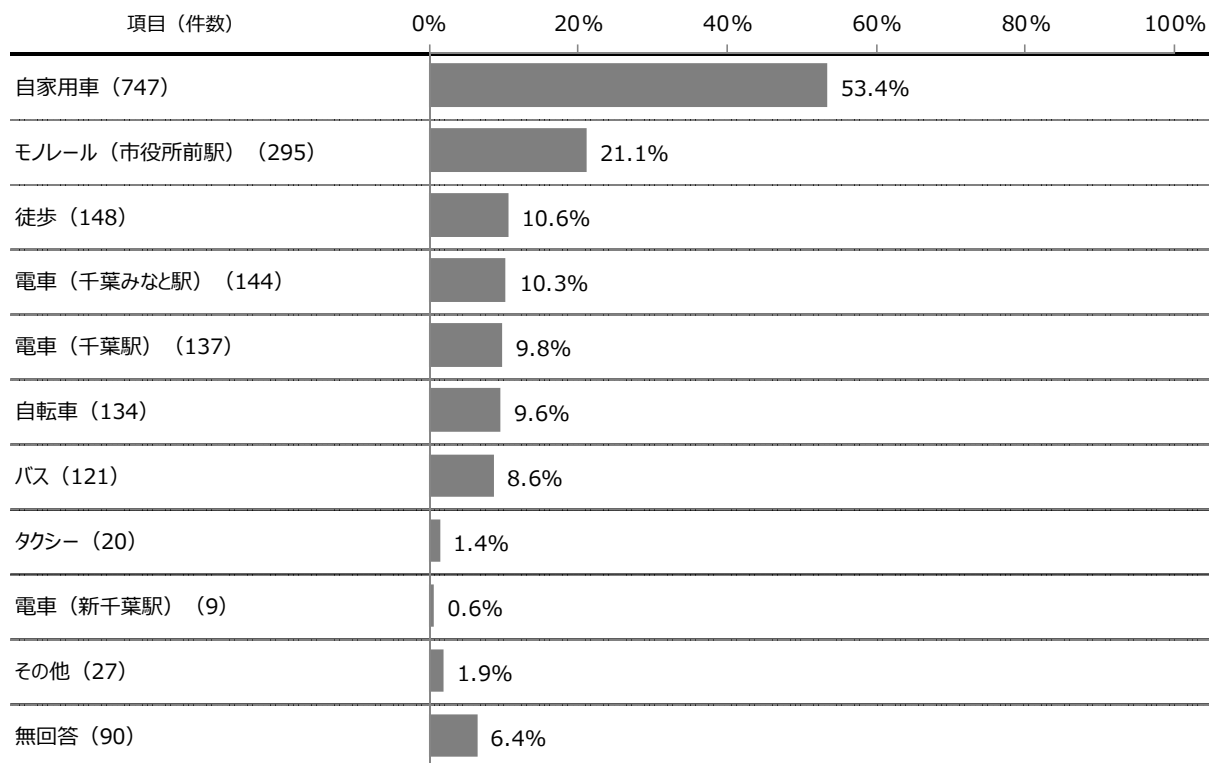
表 仕事以外での訪問で「その他」と回答した方の主な用件

仕事以外での訪問（主な用件）	件数
証明書の取得(住民票、戸籍など)	40
各種申請手続き	33
転入届等の手続き	15
証明書発行	20
見学、観光	23
イベント参加や申込	13
温水プールの利用	13
相談(福祉関係)	12
相談(公営住宅関係)	11
相談(建築関係)	6
相談(年金関係、手続きなど)	6
相談(市民課)	5
相談(教育関係)	5
相談(自治会関連)	4
相談(墓地関連)	3
相談(税金関係)	3
子供の学区手続きなど	10
子供の同伴(見学、クラブ付添など)	10
国民健康保険	8
健康診断	7
その他(講習会、ボランティア活動、書類や情報収集、昔利用したなど)	241

⑤ 利用交通手段

- 市役所本庁舎までの利用交通手段では、「自家用車(53.4%)」が最も多く、次いで「モノレール(21.1%)」、「徒歩(10.6%)」であった。

利用交通手段

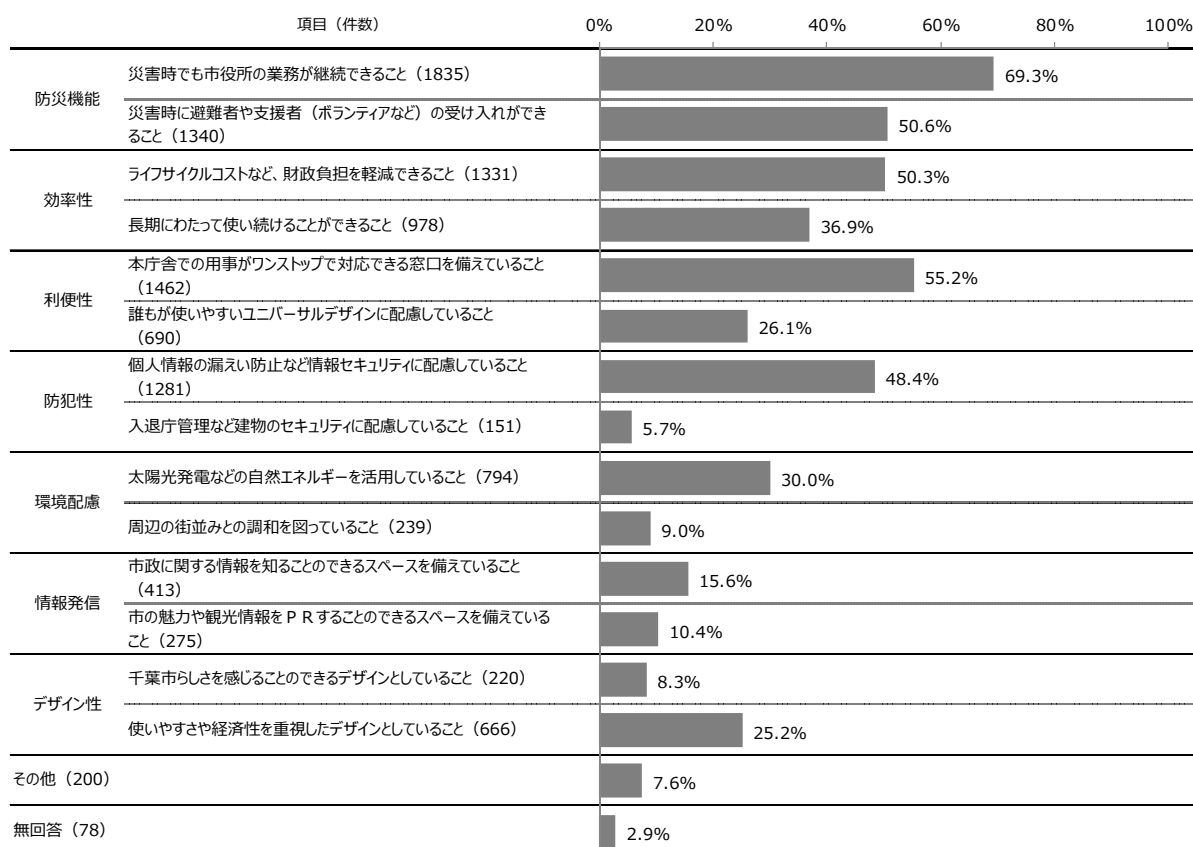


N=1,400

3) 新庁舎建設の重要な視点（重要なものを5つまで※）

- 新庁舎建設にあたっての重要な視点としては、「災害時でも市役所の業務が継続できること」(69.3%)が最も多く指摘されている。「災害時に避難者や支援者(ボランティアなど)の受け入れができること」(50.6%)も多くの回答があり、防災機能への重視が伺える。
- 次に、「本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること」(55.2%)など、来庁者へのサービス向上の回答も多く寄せられた。
- その他、「ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること」も、50.3%と半数の市民が重要視する項目である。

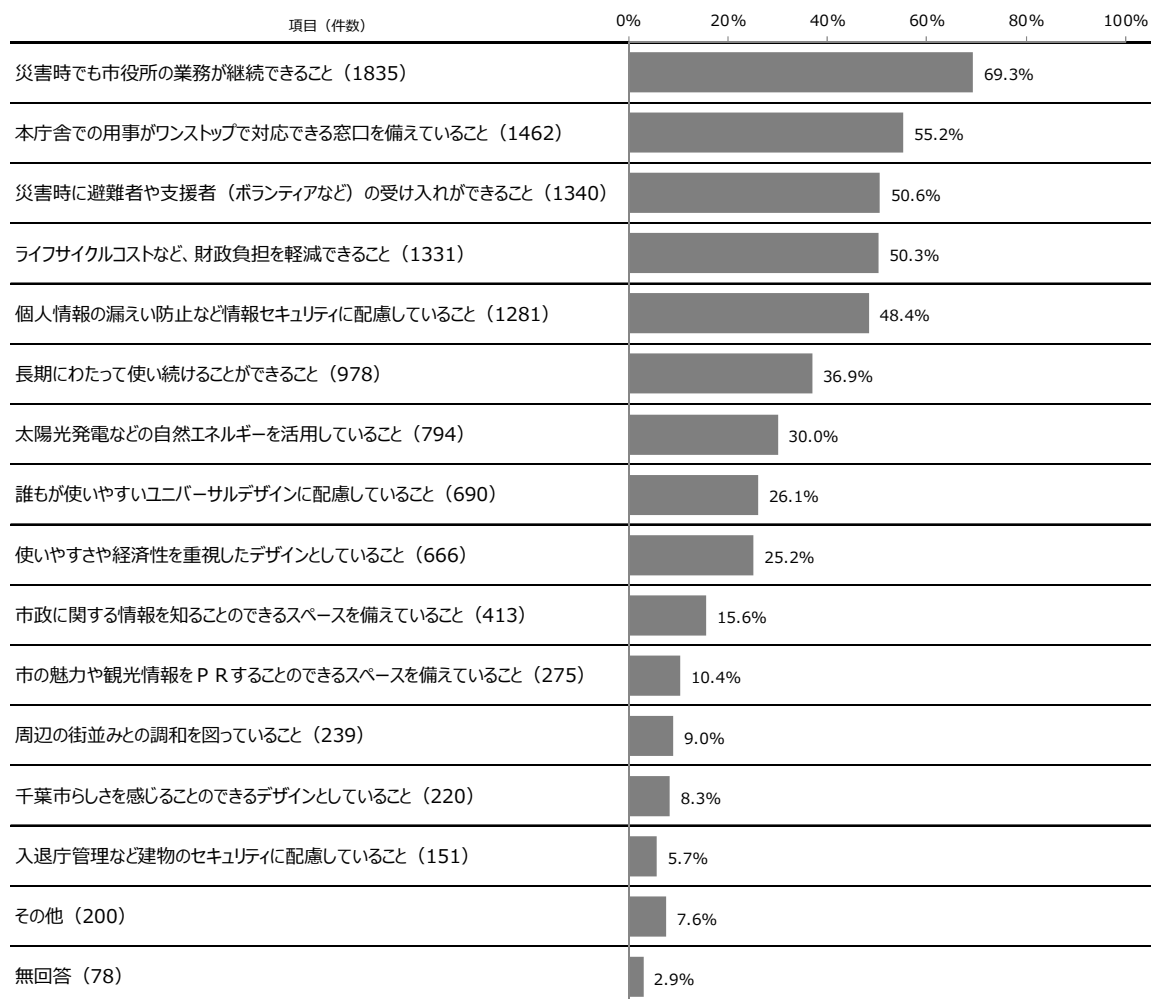
新庁舎建設の重要な視点



N=2,647

※本問は、特に重要と思うものを5つまで選択としていたが、回答者の中には6つ以上が選択された回答もあったため、選択回数によらず集計対象とした。

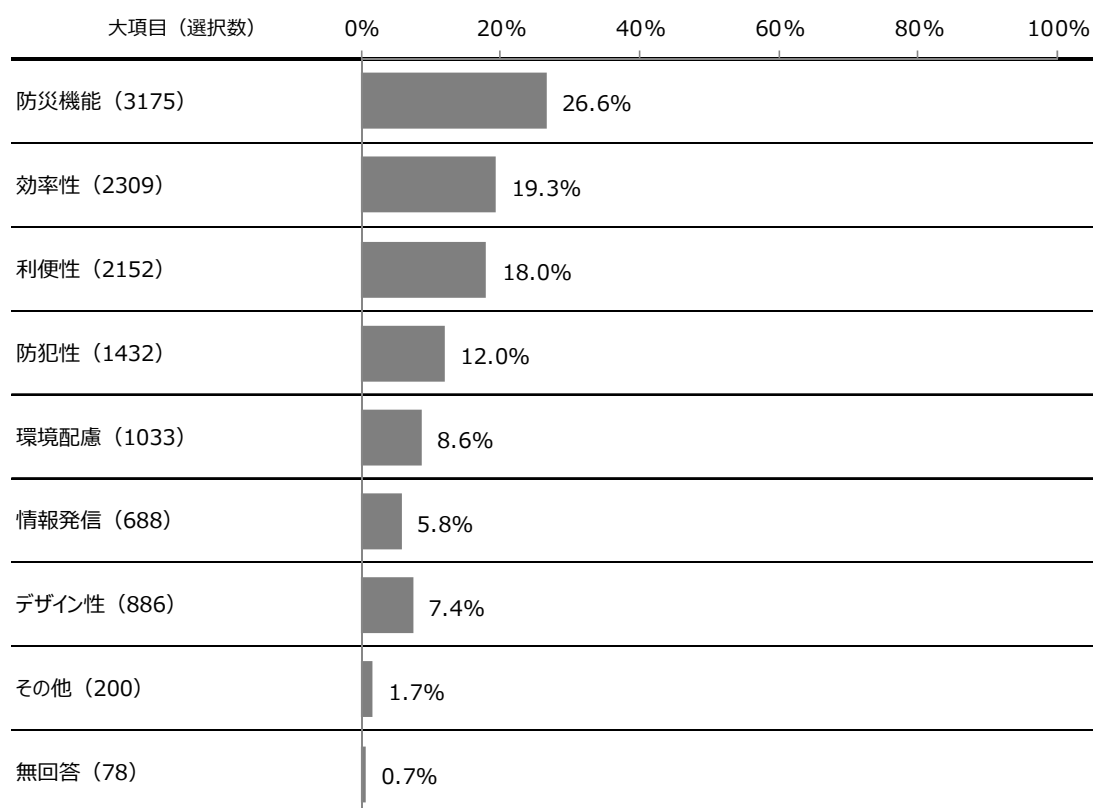
新庁舎建設の重要な視点【降順】



N=2, 647

- 回答者に選んでいただいた重要な視点をカテゴリ別に集計し整理すると、「防災機能」(26.6%)が最も多い。次に「効率性」(19.3%)、「利便性」(18.0%)が上位であった。

新庁舎建設の重要な視点(カテゴリ別)



N=11,953

表 重要な視点の内容

防災機能	災害時でも市役所の業務が継続できること
	災害時に避難者や支援者(ボランティアなど)の受け入れができること
効率性	ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること
	長期にわたって使い続けることができること
利便性	本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること
	誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮していること
防犯性	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること
	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること
環境配慮	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること
	周辺の街並みとの調和を図っていること
情報発信	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること
	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること
デザイン性	千葉県らしさを感じることでできるデザインとしていること
	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること

【その他の意見】

- その他に寄せられたご意見を下記の項目に整理した。その結果、「市民の利便性について」、「庁舎の機能性について」、重要な視点とする意見が多かった。以下は、各項目での主な意見である。
 - **市民の利便性について(43 件)**
 - ・ 庁舎までの交通利便性、アクセスの向上。
 - ・ 駐車場が使いにくい、駐車場の利便性やスペースの確保。
 - ・ (行き先や目的地が)わかりやすい建物。
 - ・ 用事が無くても行きたくなる、市民が出入りしやすい(飲食、物販、託児等)。
 - **庁舎の機能性について(40 件)**
 - ・ 最低限の機能で効率的な庁舎。本庁舎はコンパクトにして使い勝手を考慮。
 - ・ 千葉県行政府としてシンボル性のある庁舎。
 - ・ IT機能の導入、充実すべき。
 - ・ 市役所は統括機能を中心にする。関連機能の集約化や機能向上を図る。
 - **経済性について(16 件)**
 - ・ 建設後の維持管理費・コストを最小限に抑えた計画。
 - ・ 税金を無駄使いしない(住民の負担を増やさない)。
 - ・ (新庁舎の前に)介護や教育関連分野に使ってほしい。
 - **防災機能の充実・災害対策について(14 件)**
 - ・ 災害時にも強い構造。津波被害も想定して業務継続できる庁舎。
 - ・ 太陽光発電など自然エネルギーを活用し、災害時も電力供給できる機能。
 - ・ 災害時に市役所でライフライン(水、電気等)を確立できるようにする。
 - **教育・福祉関連について(10 件)**
 - ・ 少子高齢化に対応するため、老人ホーム。保育所を併設。
 - ・ 教育の拠点となる市役所づくり。
 - **ユニバーサルデザインについて(6 件)**
 - ・ わかりやすい建物がよい。高齢者の利用に配慮した施設。
 - ・ 千葉市民が利用しやすい施設。
 - **環境対策について(5 件)**
 - ・ 壁面を活用した太陽光発電の設置。
 - ・ 省エネ、空調、防災、ビルの緑化など、環境性能と安全性能が重要。
 - **千葉市の PR について(4 件)**
 - ・ 千葉県・市が誇る観光スポットの PR 機能。
 - ・ 千葉市独自の新規特産物の研究、製品の開発部門のスペース。
 - **建て替えへの反対について(19 件)**
 - ・ 現庁舎のままでも十分。本庁舎が立派である必要はない。
 - ・ ほとんどの用事は区役所で済むため、本庁舎に巨額の税金をかけることは不要。

4) 敷地活用意向（複数回答）

- 新庁舎建設後の残りの敷地の活用方法は、「市の用途で活用していく方がよい」が 45.5%、「民間に貸し出して活用していく方がよい」が 39.6%であった。

新庁舎建設後の残りの敷地の活用方法

項目 (件数)	0%	20%	40%	60%	80%	100%
市の用途で活用していく方がよい (1216)						
民間に貸し出して活用していく方がよい (1059)						
その他 (166)						
無回答 (230)						

N=2,671※

※本問はどちらか一つを選択していたが、中には2つ以上選択された回答もあったため、選択個数によらず回答総数を集計対象とした。

【「市の用途で活用していく方がよい」の具体的内容】

- 敷地活用意向について、「市の用途で活用していく方がよい」とした方の自由回答では、「駐車場・駐輪場」や「災害時避難場所・備蓄場所」、「医療・福祉施設」、「公園・広場・緑地」に関する回答が多かった。以下、主な活用意見である。

➤ 駐車場・駐輪場(149 件)

- ・ 駐車場、オープンスペース、公園として存置。
- ・ 災害時に拠点となる大規模駐車場。

➤ 災害時避難場所・備蓄場所(157 件)

- ・ 災害時の避難場所、備蓄倉庫として利用。
- ・ 防災、避難の拠点になる計画。
- ・ 防災センターや防災資料館。

➤ 医療・福祉施設(93 件)

- ・ 病院、医療施設。
- ・ 老人ホームなど福祉施設
- ・ 保育所や子育て支援施設。

➤ 飲食店・商業施設(37 件)

- ・ 千葉の食材を使った食堂。カフェ兼図書館のような施設。

➤ ホール・会議室・イベントスペース(60 件)

- ・ フリマ、産地直売、物産展など、常に人が集まる場所。
- ・ 市役所からポートタワーまでの道路を官公庁や美術館などが建ち並ぶ文教通り。
- ・ 市の PR をする多目的スペース(空いている日は、市民への貸し出し)。
- ・ 音楽ホール・文化ホール・物産展ホール。

➤ 市民交流、憩いの場(公園や広場等)(170 件)

- ・ 市民が集い、楽しんでコミュニケーションできる場所。

- ・ 老人が集い、話し、ゆっくりできる広場のような施設、福祉中心の憩い施設。
- ・ 留学生をはじめ外国の方たちへの支援の場や私たち市民と交流できる場。
- ・ 花いっぱい公園や散歩できる通りなど、人が集まりたくなる場所。
- ・ 通常は市民のいこいの広場に利用(公園、テニスコート)。

➤ **スポーツ施設、教育・文化施設(153 件)**

- ・ 体育館、運動公園、プール、テニスコートなどの施設。
- ・ 子供が遊べる室内運動場。
- ・ 芸術文化スポーツの場所。
- ・ コミュニティセンターの拡大。乳幼児からシニアまで広々と使える場。

➤ **環境対策施設(6 件)**

- ・ 緑地、太陽光発電パネルの設置で庁舎の維持をサポート
- ・ 自然エネルギー施設の利用等
- ・ 緑化、シンボルツリー植樹

【「民間に貸し出して活用していく方がよい」の具体的内容】

- 敷地活用意向について、「民間に貸し出して活用していく方がよい」とした方の自由回答では、「医療・福祉施設」や「商業施設(飲食店含む)」といった回答が多かった。以下は、主な活用意見である。

➤ **駐車場・駐輪場(67 件)**

- ・ 駐車場運営で収益を確保。

➤ **医療・福祉施設(73 件)**

- ・ 様々な公的機関、企業が隣接しており、医療、福祉分野での活用。
- ・ 有料老人ホーム。
- ・ 病院(災害時の連携が可能)。
- ・ 保育所。

➤ **飲食店・商業施設(153 件)**

- ・ JAなどと協力して「道の駅」。
- ・ 買物・食事等、市民が楽しむ場所。飲食店モール等(周辺は現在少ない)。
- ・ レストラン、屋台風なお店(外国の料理等)
- ・ 千葉市の代表されるグッズ、千葉の食材を使った飲食機能等、文化的目的施設を基本とした複合施設。

➤ **ホール・会議室・イベントスペース(52 件)**

- ・ 交通の便がよいので、イベント会場として貸し出し。
- ・ 市の業務と関係がある民間(赤十字や動物愛ご等)に賃貸。

➤ **スポーツ施設、教育・文化施設(81 件)**

- ・ カルチャー施設、体育館等。
- ・ ハローワークや保健センターなどの機関も集約してほしい。

➤ **住宅(23 件)**

- ・ 低層住宅やケアハウス等の福祉施設。
- ・ 高齢者向けマンション(低い家賃で提供)。
- ・ 保育園や子供が遊べる場所。上の階はマンションやスーパーなどの複合施設。

➤ 民間事業者への貸し出し(262件)

- ・ 民間に貸し出して、収入を得た方がよい。
- ・ 「設計～運営」までの公募・入札などを行い、民間活用を推進。
- ・ 民間にアイデアコンペを実施して、その中から有益なものを採用すべき。

【「その他」の具体的内容】

- 敷地活用意向について、「その他」とした方の自由回答では、「市の用途で活用」、「民間に貸し出して活用」と、同様の意見が多く見られた。Q5 で回答いただいた意見以外の主な内容は次の通りである。
 - ・ 公園、コンサート用地(屋外音楽堂)など民間活力を活用して整備。災害時は、市の災害対策に協力することを前提とした契約。
 - ・ 一時的な設営で撤去できるような施設として活用。災害時には、ヘリコプター着陸場所や帰宅困難者対応場所として活用。
 - ・ 基本的には市が運営、市や市民にメリットがあるなら民間貸出する。
 - ・ PFI 事業手法と採用して、商業施設や住宅(賃貸・分譲)等の導入。
 - ・ 様々な団体や企業や企画に小分けに貸し出し、市役所本庁舎とのコラボレーション企画や共同でのイベントを催したりする交流の場とするなど。

表 敷地活用意向にかかる自由記述の傾向

	「1. 市で活用」を選択した回答者の自由記述回答数	「2. 民間で活用」を選択した回答者の自由記述回答数	「3. その他」を選択した回答者の自由記述回答数
駐車場・駐輪場	149	67	13
災害時避難場所・備蓄場所	157	25	19
医療・福祉施設	93	73	14
商業施設(飲食含む)	37	153	6
ホール・会議室・イベントスペース	60	52	10
市民交流、憩いの場(公園や広場等)	170	45	29
スポーツ施設、教育・文化施設	153	81	23
住宅	4	23	1
環境対策施設	6	5	0
民間事業者への貸し出し	23	262	13
売却	0	6	19
その他	127	90	59

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したもの。

※新庁舎建設後の残りの敷地の活用方法の選択肢「市で活用」、「民間で活用」で、両方に○をした回答者の自由記述に関しては、「市で活用」と「民間で活用」の回答項目数が重複している。

5) 新庁舎建設に関する自由記述

- 「新庁舎の建設に関して、ご意見があれば自由にお書き下さい」との設問に対して、全回答者数は2,675人のうち935人から、新庁舎建設に関する意見を寄せられた。
- 寄せられた意見について、大きく「1. 経済性に注目した意見」、「2. 市民利用に注目した意見」、「3. 庁舎の整備構想検討に関する意見」、「4. 防災機能に関する意見」、「5. 庁舎のイメージに関する意見」、「6. 庁舎に求められる機能や環境に関する意見」、「7. その他の意見」に分類、下記の一覧表として整理した。
- 複数の内容を含む意見はそれぞれの該当項目にカウントし、総意見数は1,230件となった。

表 新庁舎の建設に関して寄せられた自由意見の内訳

	件数	割合
1 経済性に注目した意見	175	14%
11建設コストの抑制	73	6%
12ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	81	7%
13省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	21	2%
2 市民利用に注目した意見	219	18%
21庁舎内外のアクセスやバリアフリーなどに配慮した使いやすい庁舎	85	7%
22カフェ、図書館等の市民利用スペースの充実	56	5%
23親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	60	5%
24駐車場整備(台数、広さ)の工夫	18	1%
3 庁舎の整備構想検討に関する意見	248	20%
31業者の選定方法(公平性、透明性等)	32	3%
32建て替えの是非	146	12%
33将来の必要性を見据えた庁舎	36	3%
34事業の着工時期や優先度について	27	2%
35耐震補強を実施すべき	7	1%
4 防災機能に関する意見	117	10%
41災害時の防災拠点機能を充実させる	83	7%
42地震や水害に強い地盤・立地を希望	34	3%
5 庁舎のイメージに関する意見	97	8%
51県庁所在地にふさわしい庁舎	40	3%
52華美な庁舎は不要	35	3%
53デザイン性を重視	22	2%
6 庁舎に求められる機能や環境に関する意見	45	4%
61市の職員が働きやすい効率的な環境	25	2%
62必要最小限の機能でよい	20	2%
7 その他	329	27%
71アンケートの実施に関すること	24	2%
72街の活性化に関すること	19	2%
73市役所の利用に関すること	24	2%
74市の財政に関すること	92	7%
75市政全般に関すること	63	5%
76職員の窓口対応に関すること	19	2%
77その他	88	7%
合計	1,230	100%

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したものです。

表 新庁舎の建設に関して寄せられた主な意見の概要

項目	主な意見の概要
1 経済性に注目した意見	建設費のコストダウン、コストの削減に努める。 将来的な維持管理コストを考慮すべき。ランニングコストを低減。 自然エネルギーの活用への配慮があった方が良い。など
2 市民利用に注目した意見	市民が活用できる施設、使い易い建物。 直接用事がなくても楽しめる(レストラン、カフェ、図書室、展望台、遊び場の併設)。 高齢者、子連れ、体の不自由な人等が利用しやすい施設。など
3 庁舎整備の進め方に関する意見	分散された行政機能の集約は賛成。 新庁舎の建設の必要性を感じない。など
4 防災機能に関する意見	災害時の支援拠点、災害緊急時に即応できるよう万全な施設。 防災対策が充分な災害に強い庁舎。 万一の時に市民が避難できる場所、安心できる設備や食料の備蓄。など
5 庁舎のイメージに関する意見	機能を重視した建物。華美にならない(簡素、清潔、シンプル、品の良い等)。 政令指定都市にふさわしい建物(市の象徴、シンボル性のあるもの等)。 自慢できる、他県に誇れる庁舎。など
6 庁舎に求められる機能や環境に関する意見	必要最低限の建物、スペースで十分(効率的、合理的、無駄のない庁舎等)。 市民が活用しやすく、職員の業務が効率的にできる施設。など
7 その他の意見	アンケートではなく様々な意見を参考に熟慮をかさね建設してほしい。 市の財政の健全化、無駄な支出の削減。財政赤字を減らす。 平日仕事を持つ人でも使いやすい時間帯の窓口対応をしてほしい。など

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したものです。

- 新庁舎建設に関して寄せられた自由意見では、「建て替えに肯定的な意見」「建て替えを前提とした意見」「建て替えの賛否に言及しない意見」「建て替えに否定的な意見」「その他の意見」の5つの項目に分けられた。
- 新庁舎の建設に関して寄せられた主な意見を以下に示す。

表 建設の是非に関する主な意見の概要

項目	主な意見の概要
建て替えに肯定的な意見 78件 (8.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・立派な新庁舎を建設していただきたい。 ・本庁舎の建て替えに賛成(機能の集約、耐震性、維持管理等)。 ・より充実した機能を持つ市役所になれば良い。 ・分散は無駄。早期に建て替えるべき。 <p style="text-align: right;">など</p>
建て替えを前提とした意見 575件 (61.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底的にコスト削減に努める。 ・機能性や合理性を重視(立派さ、ムダなデザイン、モニュメント等は不要)。 ・地震・津波対策が万全である施設や設備の構築。 ・市民が気軽に立ち寄れるような場所に。 <p style="text-align: right;">など</p>
建て替えの賛否に言及しない意見 93件 (9.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックまでは建設費が高騰しているので、オリンピック終了後に建築するほうが望ましい。 ・必要最低限として、財政への負担を徹底的に削減すべきではないか。 ・地震対策や津波対策は大丈夫なのか。 <p style="text-align: right;">など</p>
建て替えに否定的な意見 68件 (7.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎は必要ない。 ・建替えは税金のムダ使い。反対である。 ・現庁舎はまだまだ使える。震災対策も含め補強で十分。 ・区役所があるので、本庁舎は必要ない。 <p style="text-align: right;">など</p>
その他の意見 121件 (12.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所へ行かないので、よくわからない。 ・行政のスリム化(職員や議員の人員削減、質的向上)。 ・市の財政改善。 ・ゴミも有料化になって負担が増えた。 <p style="text-align: right;">など</p>
自由意見総数: 935件(100%)	

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したものです。

2. 本庁舎整備に関する高校生アンケート調査結果

(1) 調査概要

1) 調査の経緯

本市は、東日本大震災を契機として、本庁舎整備についてさまざまな対応策を検討してきた。その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して3カ所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ長期的に見て最も維持管理コストが抑えられるとの結論に至った。

これらの結論を踏まえ、平成 26 年度は新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定している。

2) 調査の目的

本アンケート調査は、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成する上で、これからの千葉市にとってどのような市役所本庁舎が必要であるか、市内の高校生の皆様からご意見を伺うために実施したものである。

3) 実施方法

調査の実施方法は、次のとおりである。

① 調査方法

千葉市内の市立高校 2 校の高校 1 年生～3年生に直接配布し、回答いただいた。

② 調査期間

平成 26 年 6 月 13 日に学校に依頼し、6 月 30 日までの間の自習時間を活用して実施、記入後回収した。

③ アンケート回収状況

回収数 : 233 票

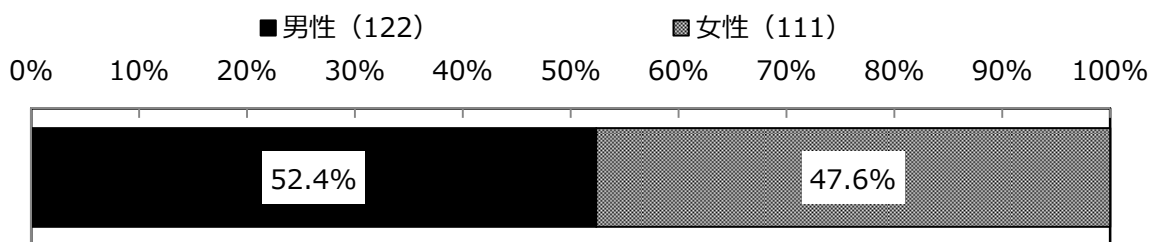
(2) 調査結果

1) 回答者のプロフィール

① 性別

- 性別による回答者の割合は、「男性」が 52.4%、「女性」が 47.6%と、男子学生の回答者が多い。

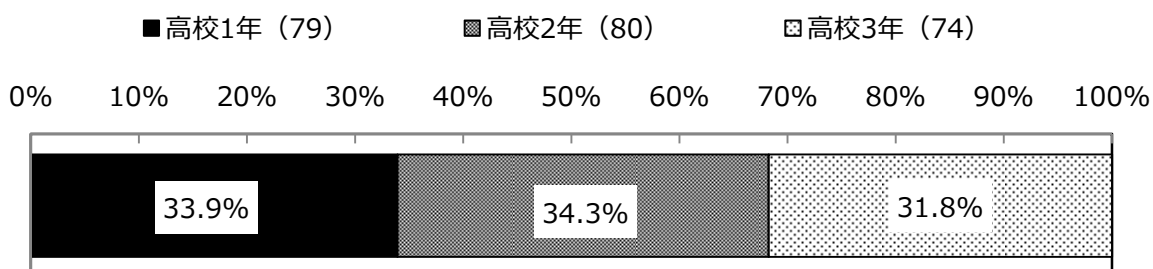
※凡例のカッコ内は回答者数を示す。



N=233

② 年齢（学年割合）

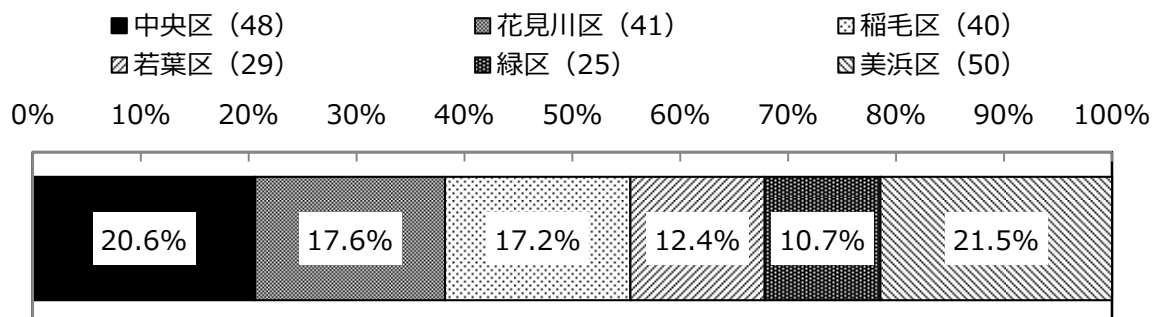
- 年齢別（高校生の学年別）の回答者割合は、高校1年が33.9%、高校2年が34.3%、高校3年が31.8%と、ほぼ同じ割合である。



N=233

③ 居住地

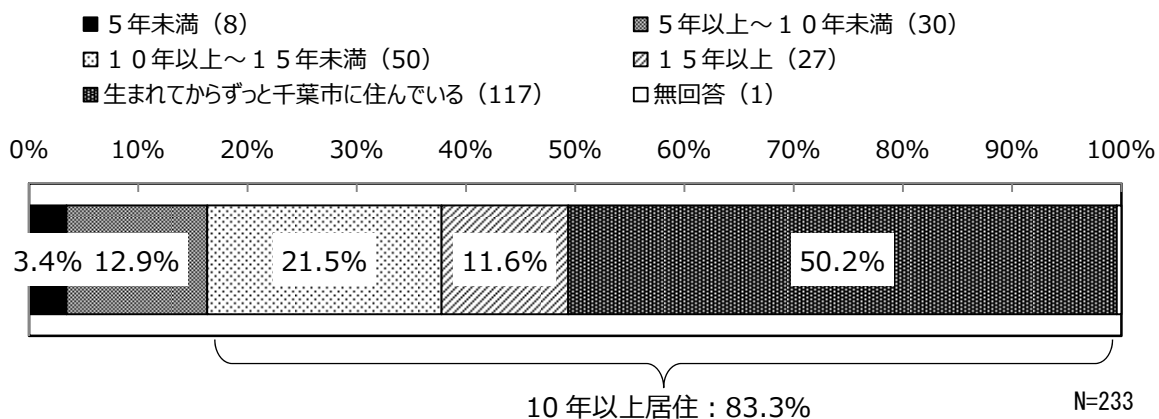
- 居住地別の回答者割合では、中央区(20.6%)と最も高く、次いで花見川区(17.6%)であった。



N=233

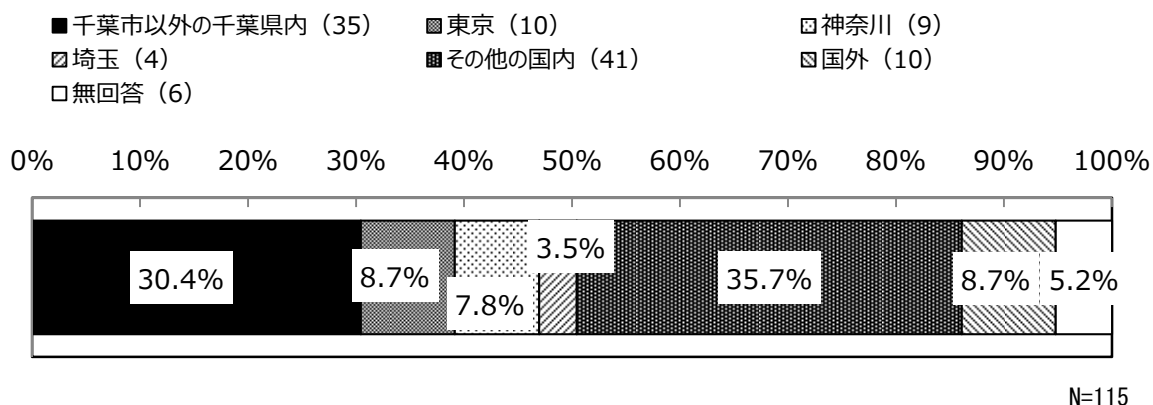
④ 市内在住期間（通算）

- 市内の在住期間の回答者割合では、約半数が生まれてからずっと千葉市に住んでいる方（50.2%）であった。これに10年以上在住している方を含めると回答者の8割以上が10年以上本市に居住する高校生である。



⑤ 転入前の居住地

- 回答者の転入前の居住地では、「その他の国内」が35.7%と最も多く、次いで「千葉市以外の千葉県内」30.4%、「東京」(8.7%)、「国外」(8.7%)とであった。

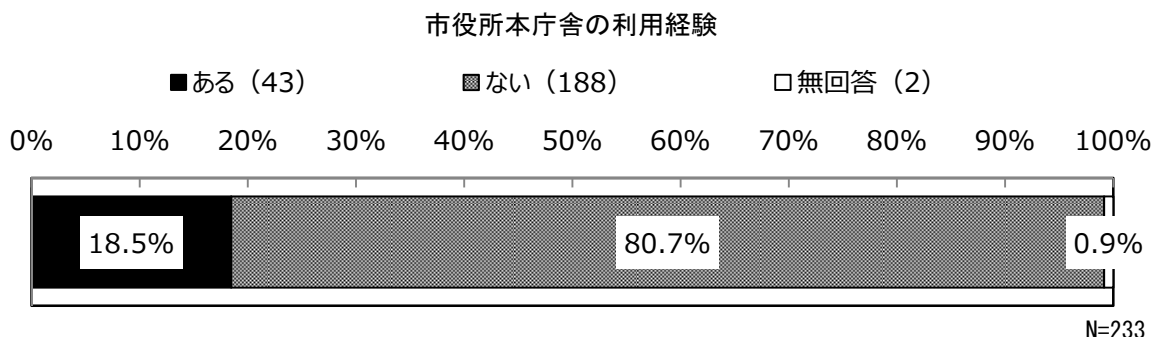


※前問④「市内在住期間（通算）」において、「生まれてからずっと千葉市に住んでいる(117名)」、「無回答(1名)」と答えた回答者を除いた値

2) 市役所本庁舎の利用状況

① 市役所本庁舎※利用経験の有無

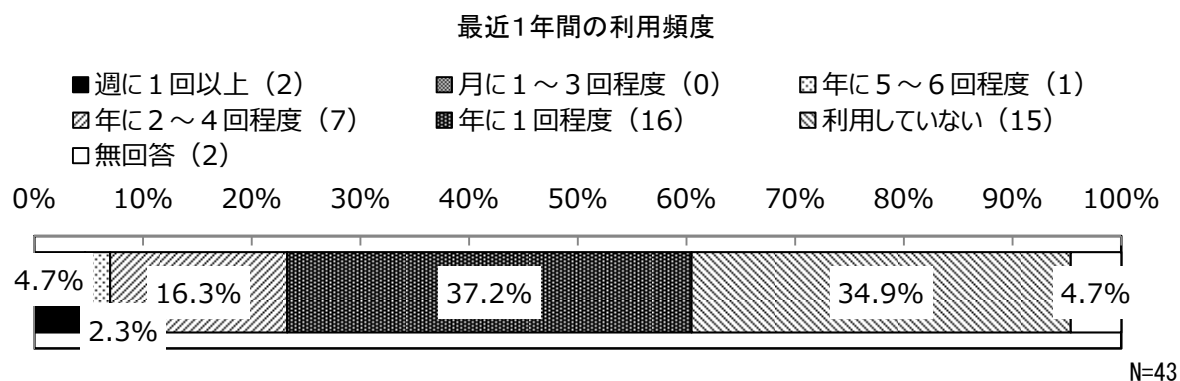
- 市庁舎本庁舎の利用について、「市役所本庁舎の利用経験がある」と回答した高校生は全体の約2割(18.5%)である。



※本庁舎、中央コミュニティセンター及びポートサイドタワーをいう。なお、中央コミュニティセンター4～6階(体育館、プール、サークル室)の利用は除く。

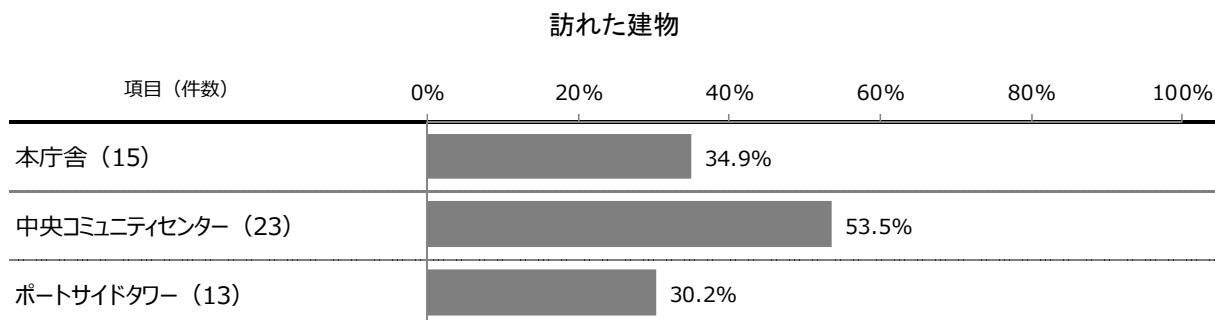
② 市役所の利用頻度

- 市役所本庁舎の「利用経験がある」と回答した高校生の最近一年間の利用頻度は、「年に1回程度」が37.2%と最も多く、次いで「利用していない(34.9%)」であった。
- 1年以内に庁舎を利用した高校生は、全体(N=233)の11.2%であった。



③ 訪問した建物(複数回答)

- 「利用経験がある」と回答した高校生のうち、訪問した建物では、「中央コミュニティセンター(53.5%)」がもっとも多く、次いで「本庁舎(34.9%)」、「ポートサイドタワー(30.2%)」であった。



N=43

④ 市役所本庁舎の訪れた用件（自由記述）

- 訪れた用件を回答した方の具体的な用件を整理。中央コミュニティセンターに併設されている体育館や温水プール、部活動等の練習や大会出場などでの利用が最も多い。
- その他、校外学習や見学、両親と同行や付添等での訪問が多い。

表 訪れた用件

訪れた用件（項目）	回答数	割合
体育館やプールの利用（習い事の練習や大会）	15	35%
校外学習や見学	5	12%
ご両親と同行、付添	7	16%
書類手続き等	3	7%
観光、遊び	2	5%
その他	3	7%
忘れた	4	9%
無回答	4	9%
合計	43	100%

⑤ 利用交通手段

- 市役所本庁舎までの利用交通手段では、「自家用車(39.5%)」と全体の約4割と多く、「自転車(27.9%)」、「徒歩(16.3%)」の順であった。

利用交通手段

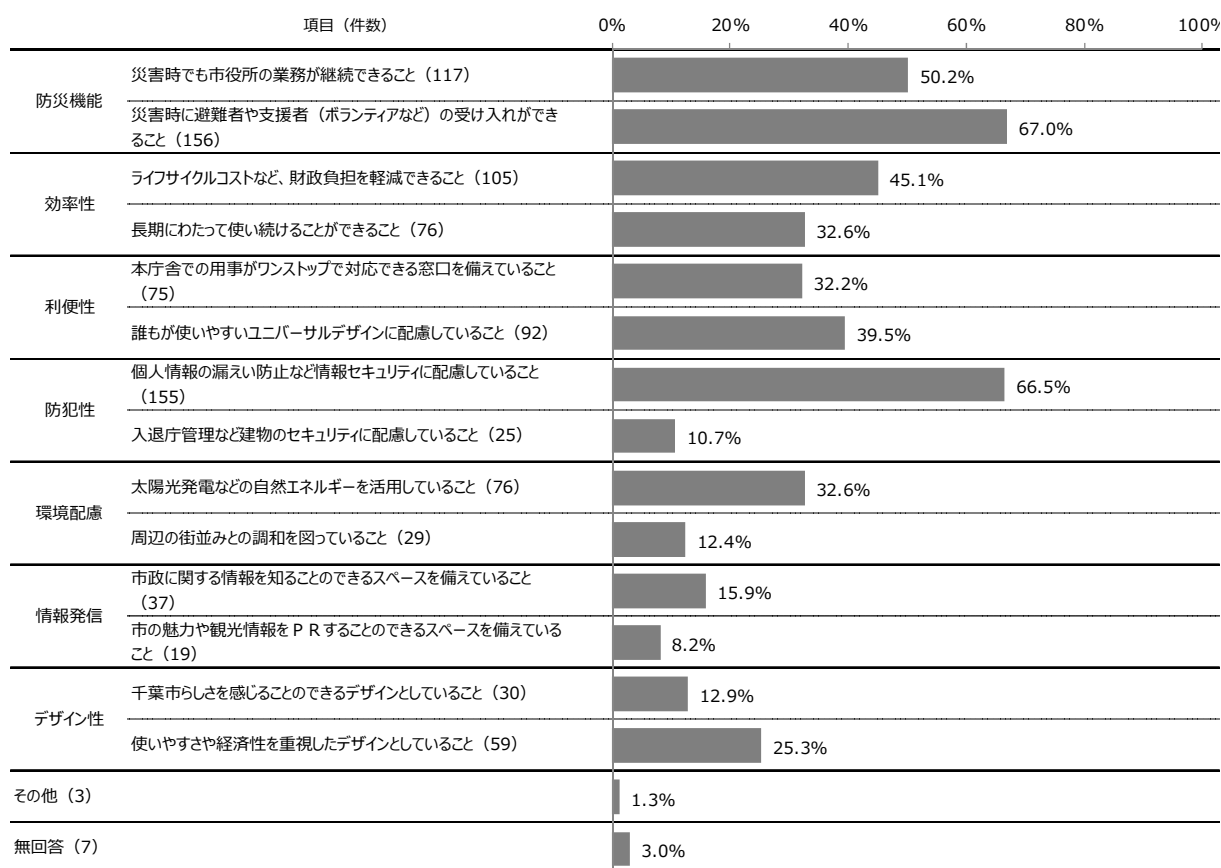
項目（件数）	0%	20%	40%	60%	80%	100%
自家用車（17）	39.5%					
自転車（12）	27.9%					
徒歩（7）	16.3%					
電車（千葉みなと駅）（7）	16.3%					
モノレール（6）	14.0%					
バス（3）	7.0%					
電車（千葉駅）（2）	4.7%					
電車（新千葉駅）（0）	0.0%					
タクシー（0）	0.0%					
その他（0）	0.0%					
無回答（2）	4.7%					

N=43

3) 新庁舎建設の重要な視点（重要なものを5つまで※）

- 新庁舎建設にあたっての重要な視点としては、「災害時に避難者や支援者（ボランティアなど）の受け入れができること」（67.0%）が最も多く選ばれている。
- 次に、「個人情報の漏えい防止など、情報セキュリティに配慮していること」（66.5%）への回答も多い。3番目には「災害時でも市役所の業務が継続できること」（50.2%）が多く回答があり、防災機能を重視する傾向が伺える。
- その他の重要な視点としては、「ライフサイクルコスト」や「ユニバーサルデザインへの配慮」といった項目が多く選択された。

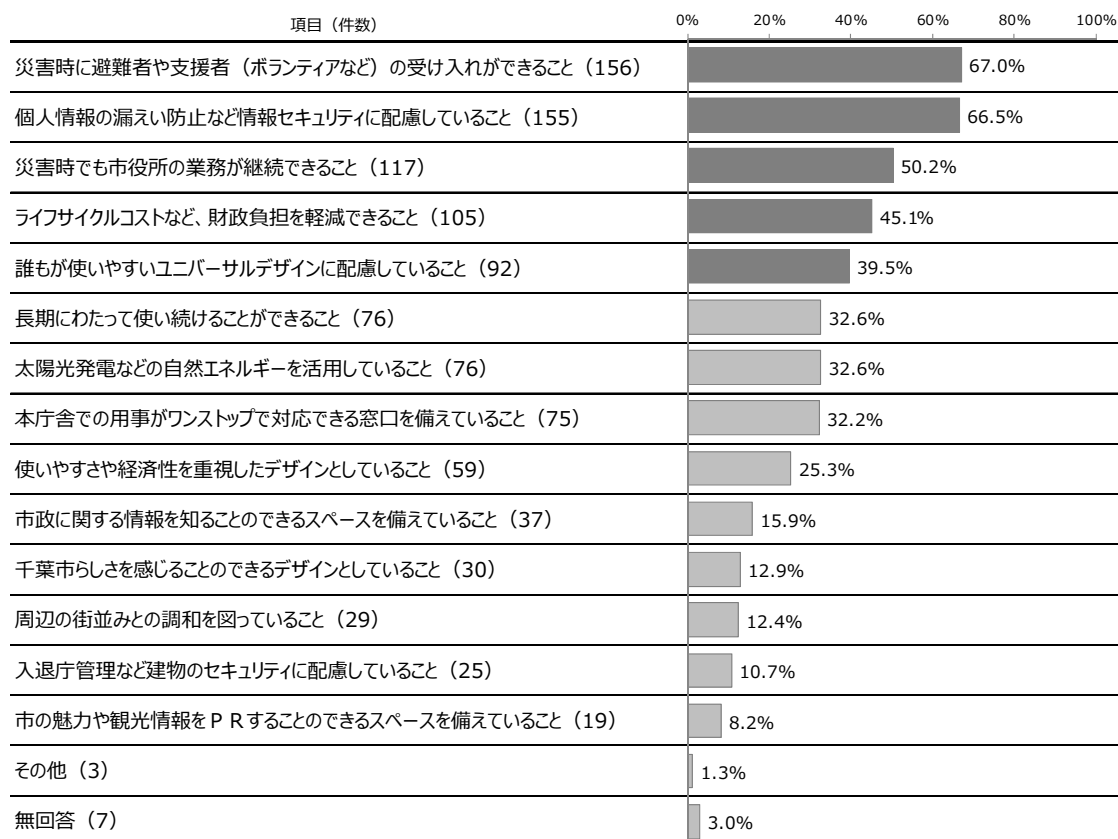
新庁舎建設の重要な視点



N=233

※本問は、特に重要と思うものを5つまで選択としていたが、回答者の中には6つ以上が選択された回答もあったため、選択個数によらず集計対象とした。

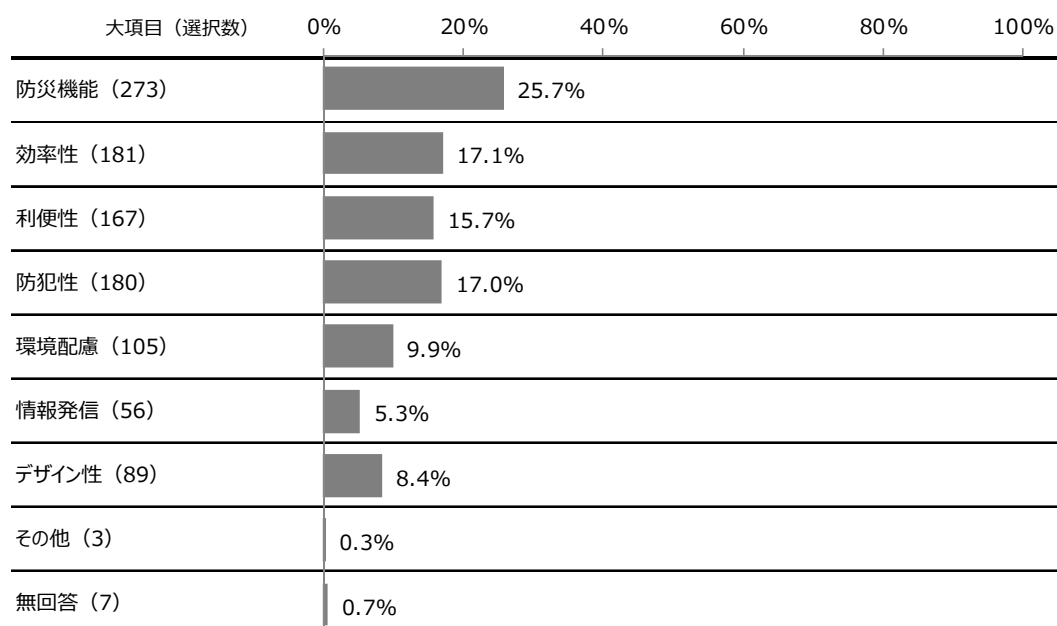
新庁舎建設の重要な視点【降順】



N=233

- 回答者に選んでいただいた重要な視点をカテゴリ別に集計し整理すると、「防災機能」（117.2%）が最も多い。次に「効率性」（77.7%）、「防犯性」（77.3%）が上位であった。

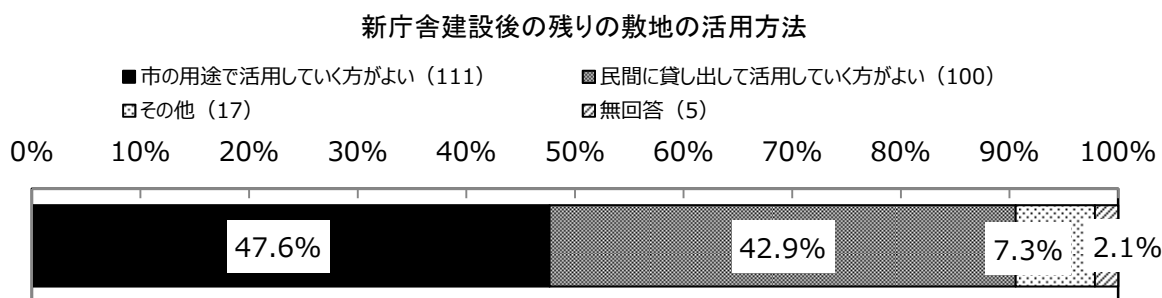
新庁舎建設の重要な視点(カテゴリ別)



N=1,061

4) 敷地活用意向（複数回答）

- 新庁舎建設後の残りの敷地の活用方法は、「市の用途で活用していく方がよい」が 47.6%、「民間に貸し出して活用していく方がよい」が 42.9%であった。



N=233

【「市の用途で活用していく方がよい」の主な意見】

- 敷地活用意向について、「市の用途で活用していく方がよい」とした方の自由回答では、「スポーツ施設、教育・文化施設」や「災害時避難場所・備蓄場所」、「医療、福祉施設」、「市民交流、憩いの場（公園や広場等）」に関する回答が多かった。
 - **スポーツ施設、教育・文化施設**
 - ・ 図書館とスポーツ施設の設置や拡充に関する意見が目立つ。
 - **災害時避難場所・備蓄場所**
 - ・ 災害時の避難場所、災害対策本部の機能充実にに関する意見。
 - **市民交流、憩いの場（公園や広場等） など**
 - ・ 気軽に入れる、お年寄りから子供まで利用できる場所に関する意見。 など

【「民間に貸し出して活用していく方がよい」の主な意見】

- 敷地活用意向について、「民間に貸し出して活用していく方がよい」とした方の自由回答では、「スポーツ施設、教育・文化施設」、「市民交流、憩いの場（公園や広場など）」といった回答が多かった。
 - **スポーツ施設、教育・文化施設**
 - ・ 図書館（自習・学習スペース）、プール、フットサルコート、テニスコート等のスポーツ施設設置に関する意見。
 - **市民交流、憩いの場（公園や広場等）**
 - ・ 緑豊かな公園、多目的広場、公共の集いの場等に関する意見。
 - **民間事業者への貸し出し**
 - **商業施設 など**

【「その他」の具体的内容】

- 敷地活用意向について、「その他」とした方の自由回答の主な意見を示す。

- ・ 公園や広場にする。木々、花を植えてさわやかな広場。自然ゆたかな公園。など
- ・ 老人と子供たちがふれあい、心のケアをすることができる場。
- ・ 市と民間が合同で何かできるもの。
- ・ 駐車場、駐輪場。 など

表 敷地活用意向にかかる自由記述の傾向

	「1. 市で活用」を選択した回答者の自由記述回答数	「2. 民間で活用」を選択した回答者の自由記述回答数
駐車場・駐輪場	0	1
災害時避難場所・備蓄場所	10	0
医療・福祉施設	3	1
商業施設（飲食含む）	1	3
ホール・会議室・イベントスペース	2	2
市民交流、憩いの場（公園や広場等）	7	12
スポーツ施設、教育・文化施設	16	31
住宅	1	0
環境対策施設	3	0
民間事業者への貸し出し	0	6
売却	0	2
その他	12	2

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したもの。

※新庁舎建設後の残りの敷地の活用方法の選択肢「市で活用」、「民間で活用」で、両方に○をした回答者の自由記述に関しては、「市で活用」と「民間で活用」の回答項目数が重複している。

5) 新庁舎建設に関する自由記述

- 「新庁舎の建設に関して、ご意見があれば自由にお書き下さい」との設問に対して、全回答者数は233人のうち73人から回答があった。
- 寄せられた意見について、大きく「1. 経済性に注目した意見」、「2. 市民利用に注目した意見」、「3. 庁舎の整備構想検討に関する意見」、「4. 防災機能に関する意見」、「5. 庁舎のイメージに関する意見」、「6. 庁舎に求められる機能や環境に関する意見」、「7. その他の意見」に分類、下記の一覧表として整理した。
- 複数の意見を含む場合は、それぞれの該当項目にカウントし、総意見数は83件であった。

表 新庁舎の建設に関して寄せられた自由意見の内訳

	件数	割合
1 経済性に注目した意見	14	17%
11 建設コストの抑制	11	13%
12 ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	1	1%
13 省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	2	2%
2 市民利用に注目した意見	13	16%
21 庁舎内外のアクセスやバリアフリーなどに配慮した使いやすい庁舎	4	5%
22 カフェ、図書館等の市民利用スペースの充実	4	5%
23 親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	5	6%
24 駐車場整備(台数、広さ)の工夫	0	0%
3 庁舎の整備構想検討に関する意見	10	12%
31 業者の選定方法(公平性、透明性等)	0	0%
32 建て替えの是非	8	10%
33 将来の必要性を見据えた庁舎	2	2%
34 事業の着工時期や優先度について	0	0%
35 耐震補強を実施すべき	0	0%
4 防災機能に関する意見	6	7%
41 災害時の防災拠点機能を充実させる	5	6%
42 地震や水害に強い地盤・立地を希望	1	1%
5 庁舎のイメージに関する意見	13	16%
51 県庁所在地にふさわしい庁舎	0	0%
52 華美な庁舎は不要	6	7%
53 デザイン性を重視	7	8%
6 庁舎に求められる機能や環境に関する意見	3	4%
61 市の職員が働きやすい効率的な環境	3	4%
62 必要最小限の機能でよい	0	0%
7 その他	24	29%
71 アンケートの実施に関すること	0	0%
72 街の活性化に関すること	0	0%
73 市役所の利用に関すること	2	2%
74 市の財政に関すること	2	2%
75 市政全般に関すること	4	5%
76 職員の窓口対応に関すること	0	0%
77 その他	16	19%
合計	83	100%

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したもの。

- 新庁舎建設に関して寄せられた自由意見では、「建て替えに肯定的な意見」「建て替えを前提とした意見」「建て替えの賛否に言及しない意見」「建て替えに否定的な意見」「その他の意見」の5つの項目に分けられた。
- 新庁舎の建設に関して寄せられた主な意見を以下に示す。

項目	主な意見の概要
建て替えに肯定的な意見 6件 (8.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・立派な庁舎の完成を望む。 ・市民が使いやすい新庁舎。 ・できるだけ早く建設し、災害に備える。 <p style="text-align: right;">など</p>
建て替えを前提とした意見 41件 (56.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が(高校生の自分も)気軽に訪れることができる庁舎。 ・ムダのない、シンプルなデザイン、装飾系統はほどほど。 ・経済への配慮、多額のお金を使わないような建設。 ・耐震性の高い建物。 ・デザインの良い、魅力あるものにしてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>
建て替えの賛否に言及しない意見 2件 (2.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・続々と店舗が撤退しているポートサイドタワーへの移転。 ・新庁舎の建設を行って、市の財政は大丈夫なのですか。
建て替えに否定的な意見 2件 (2.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎を造るのではなく今の庁舎を生かして行くべき。 ・財政が厳しい中、新庁舎を建設するのは良くない。
その他の意見 22件 (30.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスコートなど、運動ができる場所をつくってもらいたい。 ・体育館の雨漏りを直していただきたい。 ・頑張ってください。 ・災害時の対応をしっかりやってほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>
自由意見総数:73件(100%)	

※上記の区分は、回答内容を踏まえて作成したものの。

3. 本庁舎整備に関する市民アンケート調査 クロス集計結果

1) 年齢別の回答の傾向

年齢別で新庁舎に求める回答傾向や違い・変化を把握した。クロス集計項目は下表のとおりである。

表 市民アンケート調査 年齢別回答とのクロス集計

設問 1	設問 2
Q1.② 「年齢別」	Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計
	Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計(割合%)
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計(割合%)
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計(割合%)

Q1.②「年齢別」-Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計

- 年齢別と新庁舎建設にあたっての重要な視点とのクロス集計の回答割合を見ると、全ての年齢層において、「災害時でも市役所の業務が継続できること」、「本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること」への回答割合が大きい。
- 年齢別の特徴として、より若い年齢層で「本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること」への回答が高い傾向が見られた。

表「年齢別」と「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計

		18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	小計
防災機能	災害時でも市役所の業務が継続できること	18	96	234	344	268	423	326	119	1,828
	災害時に避難者や支援者(ボランティアなど)の受け入れができること	26	100	187	248	179	268	246	80	1,334
効率性	ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること	12	68	178	286	211	301	210	60	1,326
	長期にわたって使い続けることができること	14	65	114	178	155	197	189	63	975
利便性	本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること	18	90	198	297	198	301	261	92	1,455
	誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮していること	16	61	97	115	84	132	140	42	687
防犯性	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	16	91	165	246	165	302	221	68	1,274
	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	1	10	29	29	16	27	26	11	149
環境配慮	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	12	32	77	108	96	207	206	50	788
	周辺の街並みとの調和を図っていること	3	18	21	35	22	70	57	13	239
情報発信	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	6	25	37	37	64	95	107	39	410
	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	4	16	32	28	32	69	64	29	274
デザイン性	千葉県らしさを感じることのデザインとしていること	2	16	21	20	18	52	60	27	216
	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	3	43	64	79	76	177	179	41	662
その他		4	11	18	22	21	41	62	19	199
回答者数		33	159	327	469	351	594	519	169	2,621

表「年齢別」と「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計（年齢別の回答割合）

		18・19 歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上
防災機能	災害時でも市役所の業務が継続できること	54.5%	60.4%	71.6%	73.3%	76.4%	71.2%	62.8%	70.4%
	災害時に避難者や支援者（ボランティアなど）の受け入れができること	78.8%	62.9%	57.2%	52.9%	51.0%	45.1%	47.4%	47.3%
効率性	ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること	36.4%	42.8%	54.4%	61.0%	60.1%	50.7%	40.5%	35.5%
	長期にわたって使い続けることができること	42.4%	40.9%	34.9%	38.0%	44.2%	33.2%	36.4%	37.3%
利便性	本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること	54.5%	56.6%	60.6%	63.3%	56.4%	50.7%	50.3%	54.4%
	誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮していること	48.5%	38.4%	29.7%	24.5%	23.9%	22.2%	27.0%	24.9%
防犯性	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	48.5%	57.2%	50.5%	52.5%	47.0%	50.8%	42.6%	40.2%
	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	3.0%	6.3%	8.9%	6.2%	4.6%	4.5%	5.0%	6.5%
環境配慮	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	36.4%	20.1%	23.5%	23.0%	27.4%	34.8%	39.7%	29.6%
	周辺の街並みとの調和を図っていること	9.1%	11.3%	6.4%	7.5%	6.3%	11.8%	11.0%	7.7%
情報発信	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	18.2%	15.7%	11.3%	7.9%	18.2%	16.0%	20.6%	23.1%
	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	12.1%	10.1%	9.8%	6.0%	9.1%	11.6%	12.3%	17.2%
デザイン性	千葉県らしさを感じることのデザインとしていること	6.1%	10.1%	6.4%	4.3%	5.1%	8.8%	11.6%	16.0%
	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	9.1%	27.0%	19.6%	16.8%	21.7%	29.8%	34.5%	24.3%
その他		12.1%	6.9%	5.5%	4.7%	6.0%	6.9%	11.9%	11.2%
回答者数		33	159	327	469	351	594	519	169

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

Q1.②「年齢別」-Q7.「新庁舎建設に関する自由意見（建替えの是非）」クロス集計

- 年齢別と新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)とのクロス集計の割合では、20歳代や30歳代に「建て替えを前提とした意見」の割合が大きく、50歳代や60歳代に「建て替えに否定的な意見」の割合は大きいものの差はわずかであり、年齢による大きな変化は見られなかった。

表 「年齢別」と「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」のクロス集計

	18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明	総計
建て替えに肯定的な意見	1	6	12	10	10	18	15	6	0	78
建て替えを前提とした意見	7	36	91	112	80	120	94	30	5	575
建て替えの賛否に言及しない意見	1	5	11	24	13	16	18	4	1	93
建て替えに否定的な意見	0	2	10	8	13	20	12	3	0	68
その他の意見	3	3	10	26	23	21	25	10	0	121
回答者計	12	52	134	180	139	195	164	53	6	935

表 「年齢別」と「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」のクロス集計（年齢別の回答割合）

	18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明
建て替えに肯定的な意見	8.3%	11.5%	9.0%	5.6%	7.2%	9.2%	9.1%	11.3%	0.0%
建て替えを前提とした意見	58.3%	69.2%	67.9%	62.2%	57.6%	61.5%	57.3%	56.6%	83.3%
建て替えの賛否に言及しない意見	8.3%	9.6%	8.2%	13.3%	9.4%	8.2%	11.0%	7.5%	16.7%
建て替えに否定的な意見	0.0%	3.8%	7.5%	4.4%	9.4%	10.3%	7.3%	5.7%	0.0%
その他の意見	25.0%	5.8%	7.5%	14.4%	16.5%	10.8%	15.2%	18.9%	0.0%

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

Q1.②「年齢別」-Q7.「新庁舎建設に関する自由意見（7項目分類）」クロス集計

- 年齢別と新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)とのクロス集計の割合では、年齢別による7項目の回答傾向に大きな変化は見られなかった。

表「年齢別」新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)のクロス集計

		18・19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80歳以 上	総計
経済性に注目した意見	建設コストの抑制	0	1	7	23	12	17	12	1	73
	ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	2	4	16	14	11	19	11	3	80
	省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	0	0	4	5	1	9	1	1	21
市民利用に注目した意見	庁舎内外のアクセスやバリアフリー等に配慮した使いやすい庁舎	0	13	12	15	13	19	8	3	83
	カフェ、図書館等の市民が利用スペースの充実	1	2	14	7	11	7	10	4	56
	親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	1	5	12	11	8	8	11	2	58
	駐車場(台数、広さ)の工夫	0	0	1	2	4	3	7	1	18
庁舎の整備構想検討に関する意見	業者の選定方法(公平性、透明性等)について	0	2	7	8	5	6	3	1	32
	建て替えの是非について	1	8	22	18	23	38	27	9	146
	将来の必要性を見据えた庁舎	1	1	8	5	2	9	9	1	36
	事業の着工時期や優先度について	0	0	5	7	3	4	8	0	27
	耐震補強を実施すべき	0	0	1	1	1	3	1	0	7
防災に関する意見	災害時の防災拠点機能の充実	5	6	10	11	14	12	20	4	82
	地震や水害に強い地盤や立地	0	2	4	11	4	5	5	2	33

		18・19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80歳以 上	総計
庁舎のイメージに 関する意見	県庁所在地にふさわしい庁舎	1	3	5	7	2	10	7	4	39
	華美な庁舎は不要	0	2	7	6	8	5	5	2	35
	デザイン性を重視	0	3	0	4	2	7	3	3	22
庁舎に求められる機能や 環境に関する意見	市の職員が働きやすい効率的な環境	0	1	10	5	5	0	1	3	25
	必要最小限の機能でよい	0	2	0	5	5	3	4	1	20
その他	アンケートの実施に関すること	0	0	4	7	4	4	5	0	24
	街の活性化に関すること	0	0	4	4	5	5	1	0	19
	市役所の利用に関すること	0	0	4	4	3	4	7	2	24
	市の財政に関すること	2	7	12	19	16	21	10	5	92
	市政全般に関すること	1	0	12	12	9	16	9	4	63
	職員の窓口対応に関すること	0	0	3	7	5	2	2	0	19
	その他	1	9	5	11	13	21	19	8	87
自由意見回答者数		12	52	134	180	139	195	164	53	1,221

表「年齢別」新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)のクロス集計(年齢別の回答割合)

		18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明
経済性に注目した意見	建設コストの抑制	0.0%	1.9%	5.2%	12.8%	8.6%	8.7%	7.3%	1.9%	0.0%
	ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	16.7%	7.7%	11.9%	7.8%	7.9%	9.7%	6.7%	5.7%	16.7%
	省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	0.0%	0.0%	3.0%	2.8%	0.7%	4.6%	0.6%	1.9%	0.0%
市民利用に注目した意見	庁舎内外のアクセスやバリアフリー等に配慮した使いやすい庁舎	0.0%	25.0%	9.0%	8.3%	9.4%	9.7%	4.9%	5.7%	33.3%
	カフェ、図書館等の市民が利用スペースの充実	8.3%	3.8%	10.4%	3.9%	7.9%	3.6%	6.1%	7.5%	0.0%
	親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	8.3%	9.6%	9.0%	6.1%	5.8%	4.1%	6.7%	3.8%	33.3%
	駐車場(台数、広さ)の工夫	0.0%	0.0%	0.7%	1.1%	2.9%	1.5%	4.3%	1.9%	0.0%
庁舎の整備構想検討に関する意見	業者の選定方法(公平性、透明性等)について	0.0%	3.8%	5.2%	4.4%	3.6%	3.1%	1.8%	1.9%	0.0%
	建て替えの是非について	8.3%	15.4%	16.4%	10.0%	16.5%	19.5%	16.5%	17.0%	0.0%
	将来の必要性を見据えた庁舎	8.3%	1.9%	6.0%	2.8%	1.4%	4.6%	5.5%	1.9%	0.0%
	事業の着工時期や優先度について	0.0%	0.0%	3.7%	3.9%	2.2%	2.1%	4.9%	0.0%	0.0%
	耐震補強を実施すべき	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.7%	1.5%	0.6%	0.0%	0.0%
防災に関する意見	災害時の防災拠点機能の充実	41.7%	11.5%	7.5%	6.1%	10.1%	6.2%	12.2%	7.5%	16.7%
	地震や水害に強い地盤や立地	0.0%	3.8%	3.0%	6.1%	2.9%	2.6%	3.0%	3.8%	16.7%
庁舎のイメージに関する意見	県庁所在地にふさわしい庁舎	8.3%	5.8%	3.7%	3.9%	1.4%	5.1%	4.3%	7.5%	16.7%
	華美な庁舎は不要	0.0%	3.8%	5.2%	3.3%	5.8%	2.6%	3.0%	3.8%	0.0%
	デザイン性を重視	0.0%	5.8%	0.0%	2.2%	1.4%	3.6%	1.8%	5.7%	0.0%

		18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明
庁舎に求められる機能や環境に関する意見	市の職員が働きやすい効率的な環境	0.0%	1.9%	7.5%	2.8%	3.6%	0.0%	0.6%	5.7%	0.0%
	必要最小限の機能でよい	0.0%	3.8%	0.0%	2.8%	3.6%	1.5%	2.4%	1.9%	0.0%
その他	アンケートの実施に関すること	0.0%	0.0%	3.0%	3.9%	2.9%	2.1%	3.0%	0.0%	0.0%
	街の活性化に関すること	0.0%	0.0%	3.0%	2.2%	3.6%	2.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	市役所の利用に関すること	0.0%	0.0%	3.0%	2.2%	2.2%	2.1%	4.3%	3.8%	0.0%
	市の財政に関すること	16.7%	13.5%	9.0%	10.6%	11.5%	10.8%	6.1%	9.4%	0.0%
	市政全般に関すること	8.3%	0.0%	9.0%	6.7%	6.5%	8.2%	5.5%	7.5%	0.0%
	職員の窓口対応に関すること	0.0%	0.0%	2.2%	3.9%	3.6%	1.0%	1.2%	0.0%	0.0%
	その他	8.3%	17.3%	3.7%	6.1%	9.4%	10.8%	11.6%	15.1%	16.7%
自由意見回答者数		12	52	134	180	139	195	164	53	6

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

2) 市庁舎訪問経験有無別の回答の傾向

市庁舎訪問経験の有無別に応じて、新庁舎に求める回答傾向や違い・変化を把握した。クロス集計項目は下表のとおりである。

市民アンケート調査 市庁舎訪問経験の有無の回答とのクロス集計

設問 1	設問 2
Q2.① 「本庁舎訪問 経験の有無」	Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計
	Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計(割合%)
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計(割合%)
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計
	Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計(割合%)

Q2.①「訪問経験の有無」-Q3.「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計

- 訪問経験の有無と新庁舎建設にあたっての重要な視点とのクロス集計の回答割合を見ると、訪問経験の有無に関わらず「災害時でも市役所の業務が継続できること」、「本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること」への回答割合が大きく、訪問経験の有無別による回答に大きな違いは見られなかった。

表 「訪問経験の有無別」と「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計

		利用経験あり	利用経験なし	不明	小計
防災機能	災害時でも市役所の業務が継続できること	989	836	10	1835
	災害時に避難者や支援者(ボランティアなど)の受け入れができること	656	674	10	1340
効率性	ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること	686	639	6	1331
	長期にわたって使い続けることができること	527	446	5	978
利便性	本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること	765	687	10	1462
	誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮していること	374	313	3	690
防犯性	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	627	645	9	1281
	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	90	60	1	151
環境配慮	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	432	355	7	794
	周辺の街並みとの調和を図っていること	134	104	1	239
情報発信	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	246	165	2	413
	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	150	121	4	275
デザイン性	千葉県らしさを感じることをデザインとしていること	124	95	1	220
	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	392	270	4	666
その他		130	68	2	203
回答者数		1400	1229	18	2647

表 「訪問経験の有無別」と「新庁舎建設にあたって重要な視点」のクロス集計（有無別の回答割合）

		利用経験あり	利用経験なし	不明
防災機能	災害時でも市役所の業務が継続できること	70.6%	68.0%	55.6%
	災害時に避難者や支援者（ボランティアなど）の受け入れができること	46.9%	54.8%	55.6%
効率性	ライフサイクルコストなど、財政負担を軽減できること	49.0%	52.0%	33.3%
	長期にわたって使い続けることができること	37.6%	36.3%	27.8%
利便性	本庁舎での用事がワンストップで対応できる窓口を備えていること	54.6%	55.9%	55.6%
	誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮していること	26.7%	25.5%	16.7%
防犯性	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	44.8%	52.5%	50.0%
	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	6.4%	4.9%	5.6%
環境配慮	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	30.9%	28.9%	38.9%
	周辺の街並みとの調和を図っていること	9.6%	8.5%	5.6%
情報発信	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	17.6%	13.4%	11.1%
	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	10.7%	9.8%	22.2%
デザイン性	千葉県らしさを感じることのデザインとしていること	8.9%	7.7%	5.6%
	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	28.0%	22.0%	22.2%
その他		9.3%	5.5%	11.1%
回答者数		1,400	1,229	18

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

Q2.①「訪問経験の有無」-Q7.「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計

- 訪問経験の有無と新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)とのクロス集計において、訪問件数を母数にした割合を見ると、訪問経験の有無に関わらず「建て替えを前提とした意見」の割合が大きく、訪問経験の有無別による大きな違いは見られなかった。
- 一方、建替えの是非を母数にした場合の割合を見ると、「建て替えに肯定的な意見」は利用経験ありの回答割合が約7割と高く、「建て替えに否定的な意見」は利用経験なしの回答割合が半数より多い傾向が見られた。

表「訪問経験の有無」と「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計

	利用経験あり	利用経験なし	不明	小計
建て替えに肯定的な意見	55	23	0	78
建て替えを前提とした意見	351	222	2	575
建て替えの賛否に言及しない意見	53	39	1	93
建て替えに否定的な意見	30	36	2	68
その他の意見	74	47	0	121
回答者計	563	367	5	935

表「訪問経験の有無」と「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計
(訪問経験の有無を母数した場合の割合)

	利用経験あり	利用経験なし	不明
建て替えに肯定的な意見	9.8%	6.3%	0.0%
建て替えを前提とした意見	62.3%	60.5%	40.0%
建て替えの賛否に言及しない意見	9.4%	10.6%	20.0%
建て替えに否定的な意見	5.3%	9.8%	40.0%
その他の意見	13.1%	12.8%	0.0%
(訪問経験の有無を母数)	100%	100%	100%

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

表「訪問経験の有無」と「新庁舎建設に関する自由意見(建替えの是非)」クロス集計
(建替えの是非を母数した場合の割合)

	利用経験あり	利用経験なし	不明	(項目を母数)
建て替えに肯定的な意見	70.5%	29.5%	0.0%	100%
建て替えを前提とした意見	61.0%	38.6%	0.3%	100%
建て替えの賛否に言及しない意見	57.0%	41.9%	1.1%	100%
建て替えに否定的な意見	44.1%	52.9%	2.9%	100%
その他の意見	61.2%	38.8%	0.0%	100%

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、▒=20%以上、□=10%以上を示す。

Q2.①「訪問経験の有無」-Q7.「新庁舎建設に関する自由意見（7項目分類）」クロス集計

- 訪問経験の有無と新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)とのクロス集計では、各項目とも、訪問経験の有無による違いがほとんど見られなかった。

表 「訪問経験の有無」と「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計

		利用経験あり	利用経験なし	不明	小計
経済性に注目した意見	建設コストの抑制	42	31		73
	ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	51	30		81
	省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	11	10		21
市民利用に注目した意見	庁舎内外のアクセスやバリアフリー等に配慮した使いやすい庁舎	51	32	2	85
	カフェ、図書館等の市民が利用スペースの充実	38	18		56
	親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	37	23		60
	駐車場(台数、広さ)の工夫	12	6		18
庁舎の整備構想検討に関する意見	業者の選定方法(公平性、透明性等)について	23	9		32
	建て替えの是非について	85	59	2	146
	将来の必要性を見据えた庁舎	19	17		36
	事業の着工時期や優先度について	16	10	1	27
	耐震補強を実施すべき	5	2		7
防災に関する意見	災害時の防災拠点機能の充実	49	33	1	83
	地震や水害に強い地盤や立地	20	14		34
庁舎のイメージに関する意見	県庁所在地にふさわしい庁舎	26	13	1	40
	華美な庁舎は不要	19	16		35
	デザイン性を重視	16	6		22
庁舎に求められる機能や環境に関する意見	市の職員が働きやすい効率的な環境	17	8		25
	必要最小限の機能でよい	11	9		20
その他	アンケートの実施に関すること	14	10		24
	街の活性化に関すること	14	5		19
	市役所の利用に関すること	12	12		24
	市の財政に関すること	44	48		92
	市政全般に関すること	38	25		63
	職員の窓口対応に関すること	17	2		19
	その他	46	41	1	88
自由意見回答者数		563	367	5	935

表 「訪問経験の有無」と「新庁舎建設に関する自由意見(7項目分類)」クロス集計 (有無別の回答割合)

		利用経験あり	利用経験なし	不明
経済性に注目した意見	建設コストの抑制	7.5%	8.4%	0.0%
	ランニングコストや費用対効果、合理性への配慮	9.1%	8.2%	0.0%
	省エネ・再エネ活用によるエネルギーコスト削減	2.0%	2.7%	0.0%
市民利用に注目した意見	庁舎内外のアクセスやバリアフリー等に配慮した使いやすい庁舎	9.1%	8.7%	40.0%
	カフェ、図書館等の市民が利用スペースの充実	6.7%	4.9%	0.0%
	親しみやすく市民が立ち寄れる庁舎の工夫	6.6%	6.3%	0.0%
	駐車場(台数、広さ)の工夫	2.1%	1.6%	0.0%
庁舎の整備構想検討に関する意見	業者の選定方法(公平性、透明性等)について	4.1%	2.5%	0.0%
	建て替えの是非について	15.1%	16.1%	40.0%
	将来の必要性を見据えた庁舎	3.4%	4.6%	0.0%
	事業の着工時期や優先度について	2.8%	2.7%	20.0%
	耐震補強を実施すべき	0.9%	0.5%	0.0%
防災に関する意見	災害時の防災拠点機能の充実	8.7%	9.0%	20.0%
	地震や水害に強い地盤や立地	3.6%	3.8%	0.0%
庁舎のイメージに関する意見	県庁所在地にふさわしい庁舎	4.6%	3.5%	20.0%
	華美な庁舎は不要	3.4%	4.4%	0.0%
	デザイン性を重視	2.8%	1.6%	0.0%
庁舎に求められる機能や環境に関する意見	市の職員が働きやすい効率的な環境	3.0%	2.2%	0.0%
	必要最小限の機能でよい	2.0%	2.5%	0.0%
その他	アンケートの実施に関すること	2.5%	2.7%	0.0%
	街の活性化に関すること	2.5%	1.4%	0.0%
	市役所の利用に関すること	2.1%	3.3%	0.0%
	市の財政に関すること	7.8%	13.1%	0.0%
	市政全般に関すること	6.7%	6.8%	0.0%
	職員の窓口対応に関すること	3.0%	0.5%	0.0%
	その他	8.2%	11.2%	20.0%
自由意見回答者数		563	367	5

※回答者数あたりの割合：■=50%以上、■=20%以上、□=10%以上を示す。

【参考資料】 市民アンケート調査票

- 本庁舎整備に関する市民アンケート調査票一式
- 本庁舎整備に関する高校生アンケート調査票一式

本庁舎整備に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市は、東日本大震災を契機として、外部の専門家にもご意見を頂きながら、現在の本庁舎が抱える課題を、①防災面、②分散化・狭あい化、③老朽化の観点から整理するとともに、耐震補強をはじめとするさまざまな対応策を検討してきました。

その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して3か所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるとの結論に至りました。

平成21年に「脱・財政危機宣言」を発するなど、市の財政状況は厳しい状況ではありますが、市民の暮らしを支えるため、市役所の機能がもっとも高められる新庁舎の建設に向けた検討を進めていきたいと考えています。

平成26年度は、新庁舎を建設する上での基本方針や新庁舎に求められる機能など新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定しています。

そこで、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成していくため、市民の皆様のご意見を伺うアンケート調査を実施することにいたしました。

これからの千葉市にとってどのような市役所本庁舎が必要とお考えか、ぜひ市民の皆様のご意見をお寄せください。

ご多忙のところ大変恐れ入りますが、なにとぞご協力をお願い申し上げます。

平成26年4月

千葉市長 熊谷俊人

《アンケートについて》

1. このアンケートは、市内にお住まいの18歳以上の皆様の中から、無作為抽出した1万人の方にお送りしています。
2. 回答は無記名であり、個人名が特定されることはありません。また、回答結果は統計的に集計し、基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料としてのみ使用します。
3. アンケートの集計結果は、千葉市ホームページにて公表します。

《回答にあたって》

1. ご回答は、次項からの資料をお読みいただいた後、別添の調査票にペン又は鉛筆などで記入してください。
2. 記入は、封筒宛名のご本人の記入をお願いします。なお、ご家族などの方が、ご本人の意見を聞きながら記入いただいてもけっこうです。
3. 記入が終わりました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**平成26年5月30日（金）までに郵便ポストに投かんしてください。（切手は不要です。）**
なお、**現在、千葉市を転出している方はご回答せずご返送ください。**

これまでの検討経緯について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、市役所本庁舎の業務が一時中断するなど、改めて本庁舎の抱える課題やそのあり方が問われることとなりました。

そこで市では、平成23年度から現在の本庁舎が抱える課題を整理するとともに、耐震補強をはじめとするさまざまな対応策を検討してきました。

1. 平成23年度 市内部での検討

本庁舎のあり方について検討するプロジェクトチームを編成し、現在の本庁舎が抱える課題を整理するとともに、その対応策を検討し、その結果を取りまとめました。

本庁舎の抱える課題

①防災面の課題

本庁舎は、災害時には市の総合防災拠点として機能しなければならないことから、一般の建物以上の耐震性能（ $1s$ 値0.6の1.5倍の0.9）が必要とされていますが、 $1s$ 値は0.5であり、今後も使い続けるには耐震補強工事が必要となっています。

②分散化・狭隘化の課題

本庁舎が竣工した昭和45年以降人口増が続き、業務量が増えたことから、現在、本庁舎の他に中央コミュニティセンターとポートサイドタワーを賃借し、年間6億円近くの借上げ料を支払っています（竣工当時の人口は約48万人。現在約96万人）。

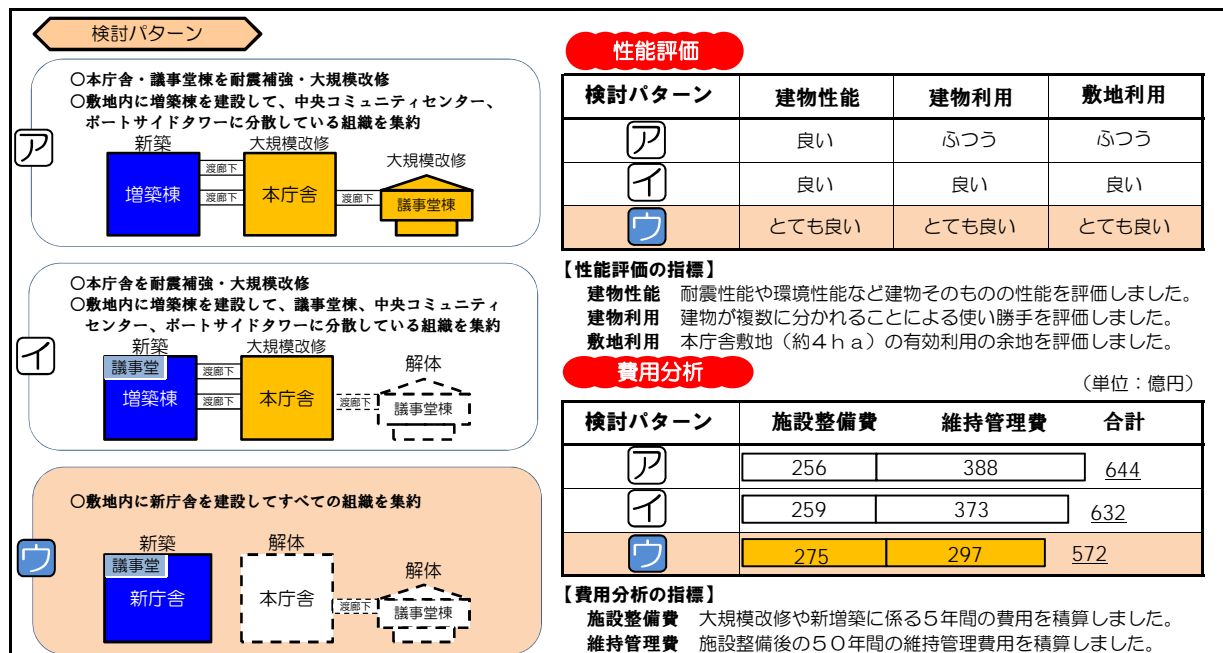
③老朽化の課題

現在の建物に求められるバリアフリー性能や環境性能が十分備わっておらず、また、電気・空調・給排水などの建築設備の更新が必要となっています。

2. 平成24年度 外部専門家による基礎調査

基礎調査では、耐震補強や大規模改修など、現在の本庁舎を使い続けて対応する5つのケースや新築・移転など現在の本庁舎を活用しない3つのケースについて、建物性能などの性能評価や工事費用や整備後50年間の維持管理費用の費用分析を行いました。

その結果、現在の本庁舎敷地に組織を集約する3つの検討ケースが有利となり、その中でも、新庁舎を建設する検討パターン（ウ）の評価が最も高くなりました。



3. 平成25年度 第三者による評価

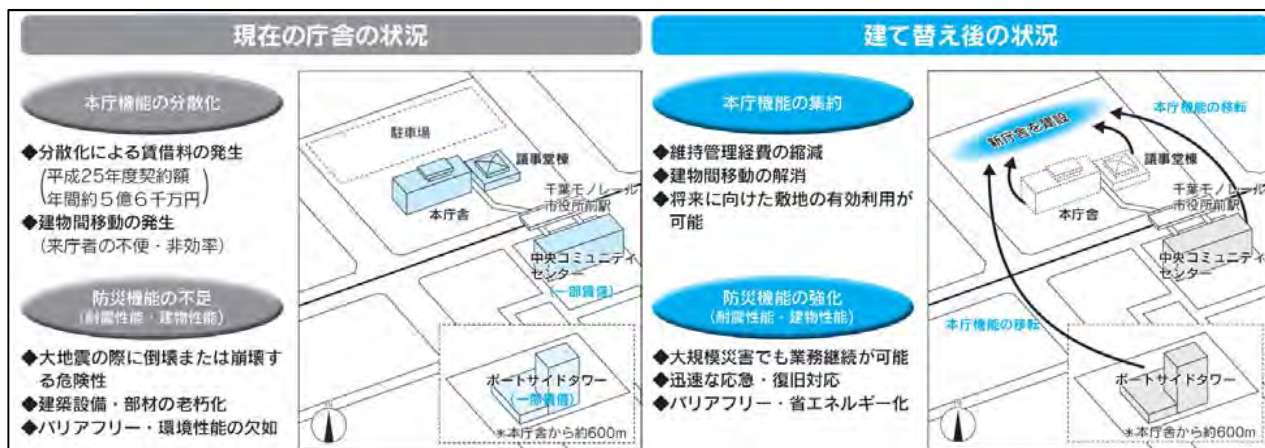
平成24年度の基礎調査についての検証を千葉大学工学部へ依頼しました。
その結果、「これまでの検討内容はおおむね妥当なものである。」と評価を受けました。

新庁舎の建設について

これらの検討を踏まえ、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して、3か所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるという結論に至りました。

初期投資はかかりますが、建物が一つに集約されることから、賃借料や維持管理経費の負担が軽減され、長い目で見て最も費用が安くなります。

市の財政状況は厳しい状況ではありますが、今年度は、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成してまいります。



千葉市の財政状況について

千葉市は、平成21年に「脱・財政危機宣言」を発し、財政健全化のための取り組みを進めてまいりました。その結果、実質公債費比率は、早期健全化基準である25%を確実に下回る見込みとなり、将来負担比率も低下しています。

今後も、引き続き財政健全化の取り組みを進めてまいります。

			【早期健全化基準】
実質公債費比率	平成21年度	21.1%	→ 平成25年度見込 18.8% (25%以上)
将来負担比率	平成21年度	306.4%	→ 平成25年度見込 245.0% (400%以上)

今後の進め方について

今後の進め方のおおまかなイメージは、次のとおりです。

建物の竣工までは、8年程度かかるものと考えています。なお、新庁舎の整備手法については、導入可能性調査を踏まえ決定します。

参考

【工 程】

【主な内容】

本庁舎整備に関するアンケート

基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料

① 基本構想

本庁舎のあるべき姿や本庁舎敷地の基本方針を整理

② 基本計画

基本構想に基づき庁舎の規模や必要な機能を整理

③ 導入可能性調査

直営・民間活用など新庁舎の整備手法を検討

④ 基本設計

基本計画に基づく設計図を作成

⑤ 実施設計

工事の発注に向けた詳細な設計図を作成

⑥ 工 事

新庁舎を建設するための工事

⑦ 竣 工

新庁舎の完成

別添の調査票へのご回答をお願いいたします。

なお、平成23年度以降の本庁舎整備に関する資料については、千葉市ホームページ及び市政情報室でご覧いただけます。

千葉市ホームページはこちら↓

<http://www.city.chiba.jp/zaiseikyoku/shisan/kanzai/index.html>

■ 本庁舎整備に関するアンケートへのご協力をお願いします ■

【経 緯】

本市は、東日本大震災を契機として、本庁舎整備についてさまざまな対応策を検討してきました。その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して、3カ所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるとの結論に至りました。

平成26年度は、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定しています。

【目 的】

このアンケートは、新庁舎を建設する上での基本方針や新庁舎に求められる機能など、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成していくため、**これから**の千葉市にとってどのような市役所本庁舎が必要とお考えか、市民の皆様のご意見を伺うため実施するものです。

【アンケートの活用方法】

お寄せいただいたアンケートは、基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料としてのみ使用します。なお、集計結果は千葉市ホームページにて公表します。

また、基本構想（案）及び基本計画（案）の作成後、それぞれパブリックコメントを実施して改めて市民の皆様のご意見を伺います。

■ 平成26年5月30日（金）（消印有効）までにご回答ください ■

1. アンケート票や返信用封筒に、住所・氏名を記入する必要はありません。
2. 記入は、封筒宛名のご本人の記入をお願いします。なお、ご家族などの方が、ご本人の意見を聞きながらご記入いただいてもけっこうです。
3. 記入が終わりました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投かんしてください。（切手は不要です。）
なお、**現在、千葉市を転出している方はご回答せずご返送ください。**
4. 本アンケートについて、ご不明な点がございましたら下記にご連絡ください。

《問い合わせ》

千葉市中央区千葉港1番1号 千葉市管財課 庁舎整備室

TEL:043-245-5044 FAX:043-245-5577

e-mail: choshaseibi@city.chiba.lg.jp

※電話でのご連絡は、平日の午前9時～午後5時をお願いいたします。

【回答方法】 該当するものに ○ を付けてください。

Q 1. はじめに、性別・年齢などをご記入ください。

①性別

1. 男性 2. 女性

②年齢

1. 18・19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

③住所

1. 中央区 2. 花見川区 3. 稲毛区
4. 若葉区 5. 緑区 6. 美浜区

④市内在住期間（通算）

1. 生まれてからずっと千葉市に住んでいる 2. 5年未満
3. 5年以上～10年未満 4. 10年以上～15年未満
5. 15年以上～20年未満（1. 以外の方） 6. 20年以上（1. 以外の方）

⑤転入前の居住地（千葉市に転入した方は、どちらからお越しになったかご記入ください。）

1. 千葉市以外の千葉県内 2. 東京
3. 神奈川 4. 埼玉
5. その他の国内（ ） 6. 国外（ ）

Q 2. 次に、市役所本庁舎※の利用状況についておうかがいします。

①これまでに市役所本庁舎を訪れたことがありますか。

※本庁舎、中央コミュニティセンター及びポートサイドタワーをいいます。なお、中央コミュニティセンター4～6階（体育館、プール、サークル室）の利用は除きます。

1. ある（下記、②以降へ） 2. ない⇒次ページへお進み下さい

②最近、概ね1年間にどのくらいの頻度で本庁舎を訪れましたか。

1. 週に1回以上 2. 月に1～3回程度 3. 年に5～6回程度
4. 年に2～4回程度 5. 年に1回程度 6. 利用していない

③どちらの建物を訪れましたか。（複数選択可）

1. 本庁舎 2. 中央コミュニティセンター 3. ポートサイドタワー

④どのような用件で訪れましたか。（複数選択可）

1. 仕事で （用件： 1. 防犯防災関係 2. 福祉関係 3. 清掃関係
4. 教育関係 5. 建築関係 6. 道路関係
7. 下水道関係 8. その他（ ））

2. 仕事以外で（用件： ）

⑤どのような交通手段を利用しましたか。（複数選択可）

1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車
4. 電車（千葉みなと駅） 5. 電車（千葉駅） 6. 電車（新千葉駅）
7. モノレール（市役所前駅） 8. バス 9. タクシー
10. その他（ ）

Q3. 市では、新庁舎の建設に当たっては、以下の14の視点が重要と考えています。

この中で、市民の皆様が特に重要と考えるものはどのような視点だとお考えですか。

該当するものに丸を付けてください。5つまで回答可能です。

なお、該当する項目がない場合は、その他欄にご意見をお書きください。

項		目	回答
防災機能	1	災害時でも市役所の業務が継続できること	
	2	災害時に避難者や支援者（ボランティアなど）の受け入れができること	
効率性	3	ライフサイクルコスト※など、財政負担を軽減できること ※建設費用と維持管理費用の合計額	
	4	長期にわたって使い続けることができること	
利便性	5	本庁舎での用事がワンストップ※で対応できる窓口を備えていること ※一度に様々な申請手続きや相談ができる受付窓口	
	6	誰もが使いやすいユニバーサルデザイン※に配慮していること ※障害の有無、年齢、性別等にかかわらず多様な人々が利用しやすくデザインすること	
防犯性	7	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	
	8	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	
環境配慮	9	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	
	10	周辺の街並みとの調和を図っていること	
情報発信	11	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	
	12	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	
デザイン性	13	千葉県らしさを感じることのできるデザインとしていること	
	14	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	
その他			

本庁舎が竣工した昭和45（1970）年当初は、周りに何も無い埋め立て地の中に、本庁舎だけが立地する状況でしたが、京葉線や千葉都市モノレールなど交通網も整備され、現在では様々な公共機関のほか、金融、電話、ガスなど、市民生活を支える企業や団体が集積するエリアとなっています。

現在の本庁舎敷地周辺の様子（平成24年撮影）



Q4. 新庁舎を現在の敷地（約4.0ha）に建設する場合、使用する面積は半分程度と想定されます。

市では、残りの敷地についても引き続き活用していく必要があると考えています。
今後、どのように活用することが、これからの千葉市にとってよいとお考えですか。
次の表の中から、該当するものに1つ丸を付けてください。

項目		回答
1	市の用途で活用していく方がよい	
2	民間に貸し出して活用していく方がよい	
3	その他	

⇒次ページのQ5へお進み下さい

⇒次ページのQ6へお進み下さい

Q5. Q4で、「1. 市の用途で活用していく方がよい」又は「2. 民間に貸し出して活用していく方がよい」を選択した方に伺います。

具体的な活用方法があればお書きください。

Q6. Q4で、「3. その他」を選択した方に伺います。

その他に具体的なお考えがあればお書きください。

Q7. 今後、新庁舎の建設に関して、ご意見があれば自由にお書きください。

以上で質問は終わりになります。ご協力ありがとうございました。

本庁舎整備に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市は、東日本大震災を契機として、外部の専門家にもご意見を頂きながら、現在の本庁舎が抱える課題を、①防災面、②分散化・狭あい化、③老朽化の観点から整理するとともに、耐震補強をはじめとするさまざまな対応策を検討してきました。

その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して3か所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるとの結論に至りました。

平成21年に「脱・財政危機宣言」を発するなど、市の財政状況は厳しい状況ではありますが、市民の暮らしを支えるため、市役所の機能がもっとも高められる新庁舎の建設に向けた検討を進めていきたいと考えています。

平成26年度は、新庁舎を建設する上での基本方針や新庁舎に求められる機能など新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定しています。

そこで、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成していくため、市民の皆様のご意見を伺うアンケート調査を実施することにいたしました。

これからの千葉市にとってどのような市役所本庁舎が必要とお考えか、ぜひこれからの時代を担う若い市民の皆様のご意見をお寄せください。

ご多忙のところ大変恐れ入りますが、なにとぞご協力をお願い申し上げます。

平成26年6月

千葉市長 熊谷俊人

《アンケートについて》

1. 回答は無記名であり、個人名が特定されることはありません。また、回答結果は統計的に集計し、基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料としてのみ使用します。
2. アンケートの集計結果は、千葉市ホームページにて公表します。

これまでの検討経緯について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、市役所本庁舎の業務が一時中断するなど、改めて本庁舎の抱える課題やそのあり方が問われることとなりました。

そこで市では、平成23年度から現在の本庁舎が抱える課題を整理するとともに、耐震補強をはじめとするさまざまな対応策を検討してきました。

1. 平成23年度 市内部での検討

本庁舎のあり方について検討するプロジェクトチームを編成し、現在の本庁舎が抱える課題を整理するとともに、その対応策を検討し、その結果を取りまとめました。

本庁舎の抱える課題

①防災面の課題

本庁舎は、災害時には市の総合防災拠点として機能しなければならないことから、一般の建物以上の耐震性能（ $1s$ 値0.6の1.5倍の0.9）が必要とされていますが、 $1s$ 値は0.5であり、今後も使い続けるには耐震補強工事が必要となっています。

②分散化・狭隘化の課題

本庁舎が竣工した昭和45年以降人口増が続き、業務量が増えたことから、現在、本庁舎の他に中央コミュニティセンターとポートサイドタワーを賃借し、年間6億円近くの借上げ料を支払っています（竣工当時の人口は約48万人。現在約96万人）。

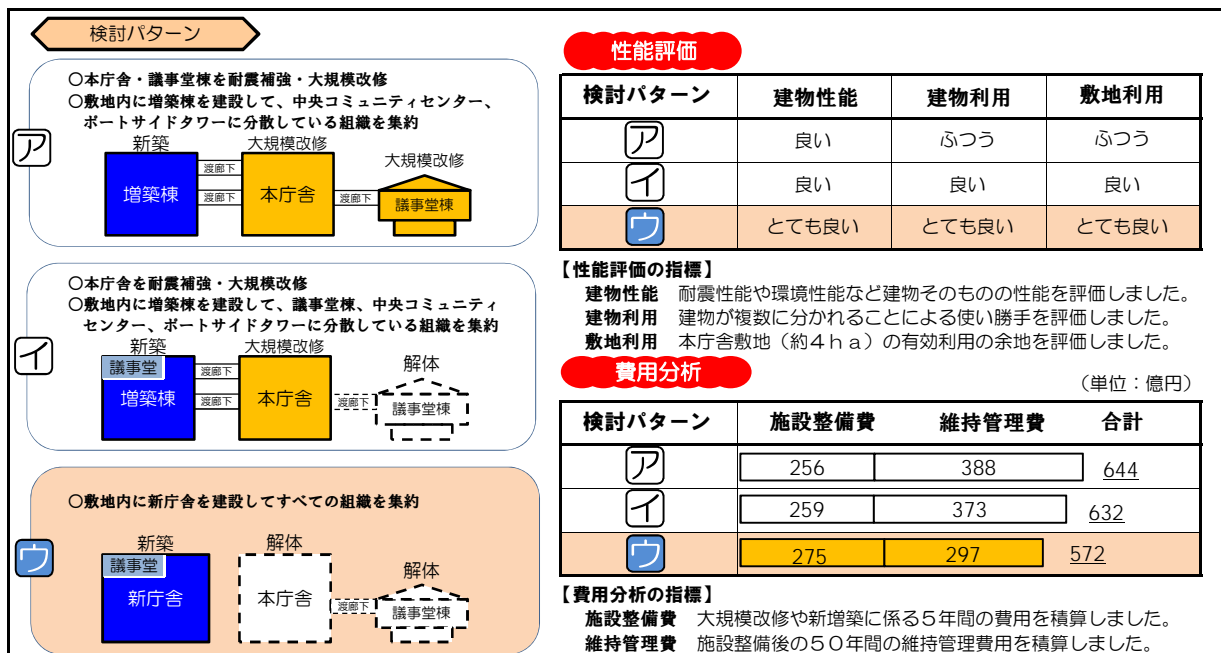
③老朽化の課題

現在の建物に求められるバリアフリー性能や環境性能が十分備わっておらず、また、電気・空調・給排水などの建築設備の更新が必要となっています。

2. 平成24年度 外部専門家による基礎調査

基礎調査では、耐震補強や大規模改修など、現在の本庁舎を使い続けて対応する5つのケースや新築・移転など現在の本庁舎を活用しない3つのケースについて、建物性能などの性能評価や工事費用や整備後50年間の維持管理費用の費用分析を行いました。

その結果、現在の本庁舎敷地に組織を集約する3つの検討ケースが有利となり、その中でも、新庁舎を建設する検討パターン（ウ）の評価が最も高くなりました。



3. 平成25年度 第三者による評価

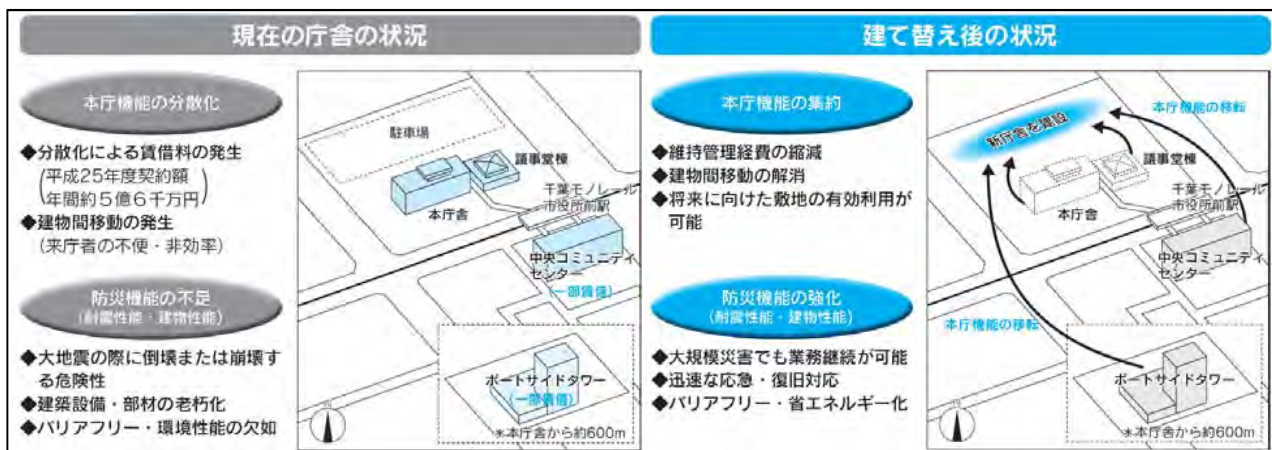
平成24年度の基礎調査についての検証を千葉大学工学部へ依頼しました。
その結果、「これまでの検討内容はおおむね妥当なものである。」と評価を受けました。

新庁舎の建設について

これらの検討を踏まえ、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して、3か所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるという結論に至りました。

初期投資はかかりますが、建物が一つに集約されることから、賃借料や維持管理経費の負担が軽減され、長い目で見て最も費用が安くなります。

市の財政状況は厳しい状況ではありますが、今年度は、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成してまいります。



千葉市の財政状況について

千葉市は、平成21年に「脱・財政危機宣言」を発し、財政健全化のための取り組みを進めてまいりました。その結果、実質公債費比率は、早期健全化基準である25%を確実に下回る見込みとなり、将来負担比率も低下しています。

今後も、引き続き財政健全化の取り組みを進めてまいります。

		【早期健全化基準】	
実質公債費比率	平成21年度 21.1%	→ 平成25年度見込	18.8% (25%以上)
将来負担比率	平成21年度 306.4%	→ 平成25年度見込	245.0% (400%以上)

今後の進め方について

今後の進め方のおおまかなイメージは、次のとおりです。

建物の竣工までは、8年程度かかるものと考えています。なお、新庁舎の整備手法については、導入可能性調査を踏まえ決定します。

参考

【工 程】

【主な内容】

本庁舎整備に関するアンケート

基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料

① 基本構想

本庁舎のあるべき姿や本庁舎敷地の基本方針を整理

② 基本計画

基本構想に基づき庁舎の規模や必要な機能を整理

③ 導入可能性調査

直営・民間活用など新庁舎の整備手法を検討

④ 基本設計

基本計画に基づく設計図を作成

⑤ 実施設計

工事の発注に向けた詳細な設計図を作成

⑥ 工 事

新庁舎を建設するための工事

⑦ 竣 工

新庁舎の完成

別添の調査票へのご回答をお願いいたします。

なお、平成23年度以降の本庁舎整備に関する資料については、千葉市ホームページ及び市政情報室でご覧いただけます。

千葉市ホームページはこちら↓

<http://www.city.chiba.jp/zaiseikyoku/shisan/kanzai/index.html>

■ 本庁舎整備に関するアンケートへのご協力をお願いします ■

【経緯】

本市は、東日本大震災を契機として、本庁舎整備についてさまざまな対応策を検討してきました。その結果、現在の本庁舎敷地内に新庁舎を建設して、3カ所に分かれている本庁機能を集約する方式が、防災面も含めた市役所の機能が最も高められ、かつ、長い目で見て一番コストが抑えられるとの結論に至りました。

平成26年度は、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画の作成を予定しています。

【目的】

このアンケートは、新庁舎を建設する上での基本方針や新庁舎に求められる機能など、新庁舎の建設に向けた基本構想及び基本計画を作成していくため、**これから**の千葉市にとってどのような市役所本庁舎が必要とお考えか、高校生の皆様のご意見を伺うため実施するものです。

【アンケートの活用方法】

お寄せいただいたアンケートは、基本構想及び基本計画を作成するための基礎資料としてのみ使用します。なお、集計結果は千葉市ホームページにて公表します。

また、基本構想（案）及び基本計画（案）の作成後、それぞれパブリックコメントを実施して改めて市民の皆様のご意見を伺います。

1. アンケート票に、住所・氏名を記入する必要はありません。
2. 本アンケートについて、ご不明な点がございましたら下記にご連絡ください。

《問い合わせ》

千葉市中央区千葉港1番1号 千葉市管財課 庁舎整備室

TEL:043-245-5044 FAX:043-245-5577

e-mail: choshaseibi@city.chiba.lg.jp

※電話でのご連絡は、平日の午前9時～午後5時にお願いいたします。

Q3. 市では、新庁舎の建設に当たっては、以下の14の視点が重要と考えています。

この中で、市民の皆様が特に重要と考えるものはどのような視点だとお考えですか。

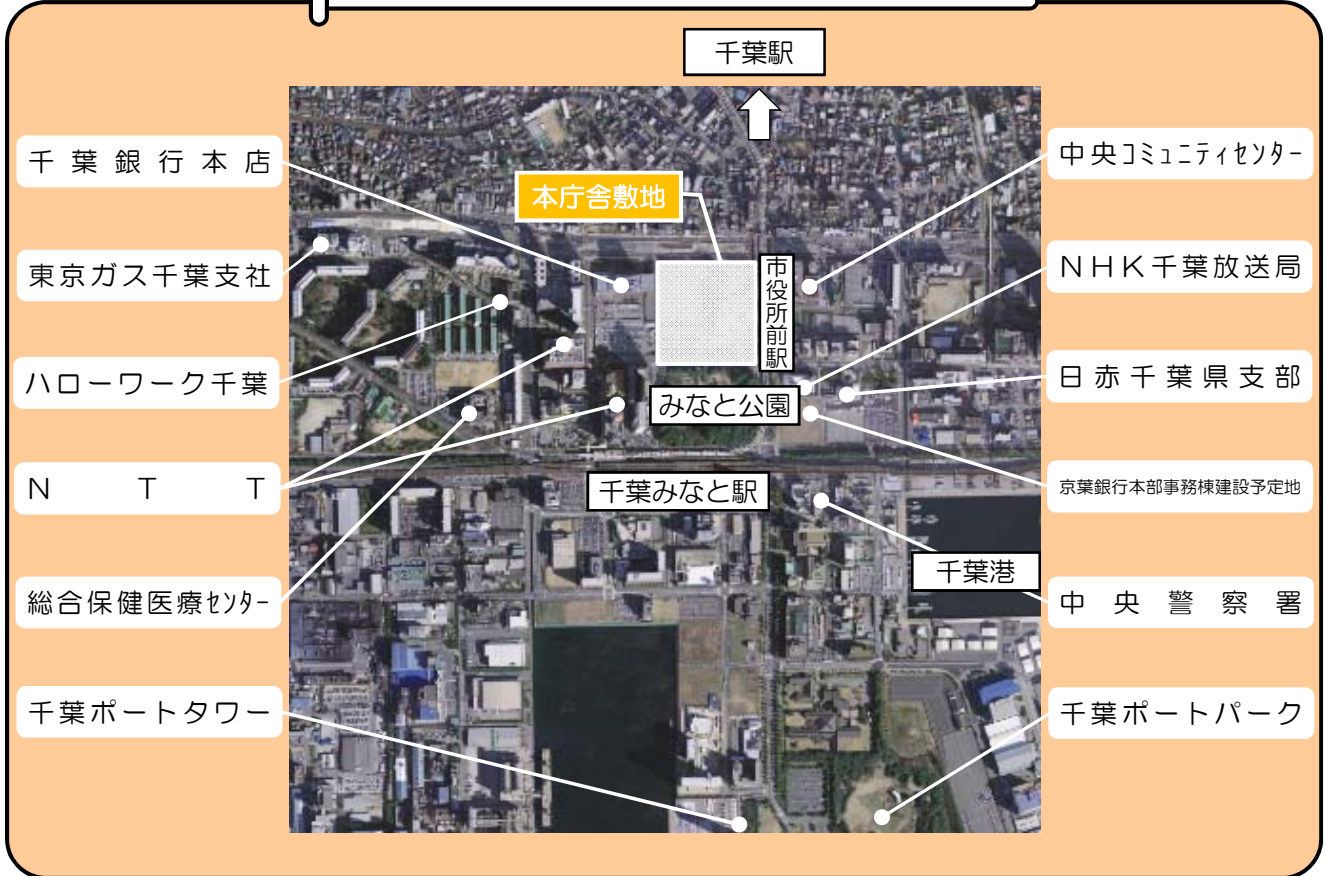
該当するものに丸を付けてください。5つまで回答可能です。

なお、該当する項目がない場合は、その他欄にご意見をお書きください。

項		目	回答
防災機能	1	災害時でも市役所の業務が継続できること	
	2	災害時に避難者や支援者（ボランティアなど）の受け入れができること	
効率性	3	ライフサイクルコスト※など、財政負担を軽減できること ※建設費用と維持管理費用の合計額	
	4	長期にわたって使い続けることができること	
利便性	5	本庁舎での用事がワンストップ※で対応できる窓口を備えていること ※一度に様々な申請手続きや相談ができる受付窓口	
	6	誰もが使いやすいユニバーサルデザイン※に配慮していること ※障害の有無、年齢、性別等にかかわらず多様な人々が利用しやすくデザインすること	
防犯性	7	個人情報の漏えい防止など情報セキュリティに配慮していること	
	8	入退庁管理など建物のセキュリティに配慮していること	
環境配慮	9	太陽光発電などの自然エネルギーを活用していること	
	10	周辺の街並みとの調和を図っていること	
情報発信	11	市政に関する情報を知ることのできるスペースを備えていること	
	12	市の魅力や観光情報をPRすることのできるスペースを備えていること	
デザイン性	13	千葉県らしさを感じることできるデザインとしていること	
	14	使いやすさや経済性を重視したデザインとしていること	
その他			

本庁舎が竣工した昭和45（1970）年当初は、周りに何も無い埋め立て地の中に、本庁舎だけが立地する状況でしたが、京葉線や千葉都市モノレールなど交通網も整備され、現在では様々な公共機関のほか、金融、電話、ガスなど、市民生活を支える企業や団体が集積するエリアとなっています。

現在の本庁舎敷地周辺の様子（平成24年撮影）



Q4. 新庁舎を現在の敷地（約4.0ha）に建設する場合、使用する面積は半分程度と想定されます。

市では、残りの敷地についても引き続き活用していく必要があると考えています。
今後、どのように活用することが、これからの千葉市にとってよいとお考えですか。
次の表の中から、該当するものに1つ丸を付けてください。

項目		回答
1	市の用途で活用していく方がよい	
2	民間に貸し出して活用していく方がよい	
3	その他	

⇒次ページのQ5へお進み下さい

⇒次ページのQ6へお進み下さい

Q5. Q4で、「1. 市の用途で活用していく方がよい」又は「2. 民間に貸し出して活用していく方がよい」を選択した方に伺います。

具体的な活用方法があればお書きください。

Q6. Q4で、「3. その他」を選択した方に伺います。

その他に具体的なお考えがあればお書きください。

Q7. 今後、新庁舎の建設に関して、ご意見があれば自由にお書きください。

以上で質問は終わりになります。ご協力ありがとうございました。